

フランス 絶景街道

Self

Drive

Collection

プレス資料
Dossier de presse



フランス 絶景街道

Self Drive Collection

セルフドライブのすすめ

一般的に、日本からフランスを旅行するお客様が現地ですでに使われる足は、圧倒的に観光バスか公共交通機関です。レンタカーを借りてドライブ旅行をされる方、つまり「セルフドライブ」の実践者は少数派なのです。

日本とは逆向きの走行車線や、ラウンドアバウト式の交差点を目の前に、尻込みしてしまいがちなセルフドライブですが、それを上回る数々のメリットや機会があることに、注目したいと思います。

まずは、公共交通機関が届かない場所、または非常に少ない場所や、旅行会社が商品化していない場所への旅を可能にしてくれるというメリットがあります。

自分の行きたい場所へ好きなタイミングで移動し、自由を謳歌できるという良さもあります。そして、ハンドルを握る自立心とともに、知らないところへ分け入っていく冒険心や達成感ももたらしてくれます。

また、コロナを経験したことによる消費者の心理的变化も見逃せません。グループ旅行に参加するより、友人同士や家族だけで移動できる手段で安心を得たいと思われる方も多いことでしょう。

もともとフランスには、ドライブの目的地にしやすい認証ラベルが幾つも揃っています。ガイドブックの星の数を頼りにしても良いのですが、「フランスの美しい村」や「花咲く町と村」協会などに登録された自治体が、紛れもない観光地としてフランス全土に散らばっているからです。

さて、フランスは観光立国として認識されていますが、サステイナブルツーリズムの分野でも世界的なリーダーの地位を目指しています。その国がなぜセルフドライブを取り上げようと思うのか疑問に思われる方も多いことでしょう。

持続可能な鍵は観光様式の多様化にあると思っています。セルフドライブは旅行会社がプログラムに組まないような時期や、皆にとって行きやすい観光地ばかりでなく多様な好みに応じた旅先が選べることから、旅行者の一極集中を避け、持続的な観光にもつながるのではないのでしょうか。

この資料により皆様がセルフドライブに興味をもたれ、次の旅について考える一助になれば幸いです。知られざるフランスをぜひ探検してみてください。



フランス観光開発機構
在日代表

フレデリック・マゼンク

目次 SOMMAIRE

- 4 セルフドライブで旅するフランス
テクニック&アドバイス
- 6 フランスでの運転、実際はどんな感じ?
- 8 オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ
まだ見ぬ絶景、山と湖に心癒やされる道
- 12 ブルターニュ
昔の面影が残る街を横切る現代
- 16 グラン・テスト
ぶどう畑と小さな村 夢溢れる道
- 20 オクシタニー
古代ローマから続く雄大な歴史を辿る道
- 24 プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール
春の訪れ告げるミモザの道

本文・地図内のマーク

ビュー
ポイント



訪れるべき
「美しい村」



名物グルメ



おすすめの
お土産



制作：フランス観光開発機構 ATOUT FRANCE
お問合せ：フランス観光開発機構 広報部 presse.jp@atout-france.fr
編集：株式会社オフィス・ギア Office GUIA Inc.
デザイン：山中遼子 Ryoko Yamanaka
地図：株式会社クライム Creative Climb
表紙写真：Photo by clodio / Getty Images

5つの 絶景街道

本資料で紹介するドライブルートは5つ。パリからのアクセスがよい、比較的大きな町から出発し、2泊3日の行程でプランを組んでいる。ドライブするだけでも楽しい「絶景街道」を、より旅の企画として提案しやすくするため、それぞれの道に、地方色が豊かで、出かけてみたくなるような「テーマ」を持たせた。観光名所をただ結ぶだけでなく、途中の行程の景色も楽しみ、フランスの地方の魅力をじっくり味わいながら迎える、厳選されたルートだ。



ブルターニュ

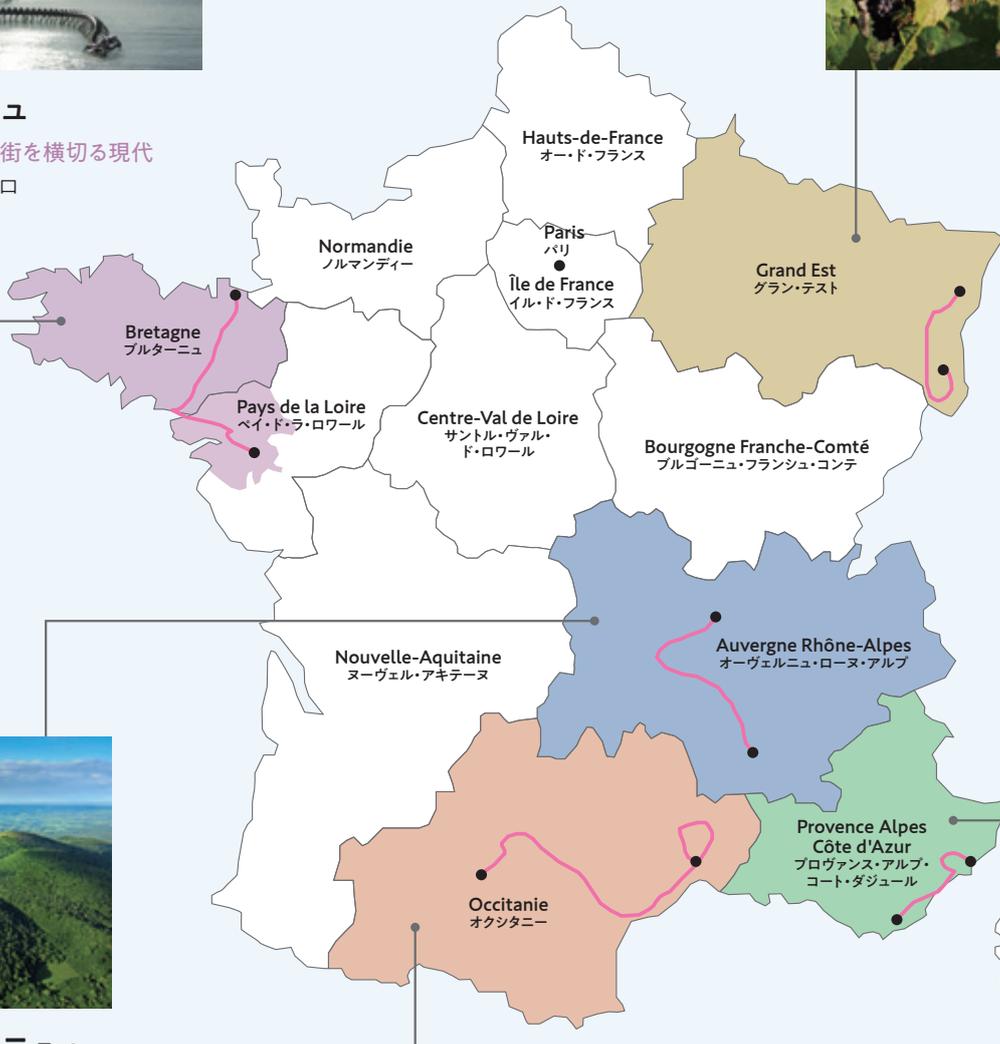
昔の面影が残る街を横切る現代
ナント～サン・マロ

▶P.12

グラン・テスト

ぶどう畑と小さな村 夢溢れる道
ストラスブール～コルマール

▶P.16



オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ

まだ見ぬ絶景、山と湖に心癒やされる道
クレルモン・フェラン
～ル・ピュイ・アン・ヴァレ

▶P.8

プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール

春の訪れ告げるミモザの道
イエール・レ・パルミエ～ニース

▶P.24



オクシタニー

古代ローマから続く
雄大な歴史を辿る道
トゥールーズ～ニーム

▶P.20



セルフドライブで旅するフランス テクニック & アドバイス

「フランス絶景街道」を
旅するための移動手段は「車」。
レンタカーを借りて
ドライブ旅行を楽しむための
基本情報とテクニックを紹介しよう。

出発前の準備

フランスで車を運転するには、「国際運転免許証」が必要になる。出発前に必ず取得しておくこと。住民登録がしてある都道府県の公安委員会で発行され、運転免許試験場や運転免許更新センターなどで申請する。

〈申請に必要なもの〉

- 運転免許証
- 写真1枚(縦5cm x 横4cm、申請前6ヵ月以内に撮影したもの)
- パスポートなど渡航を証明する書類
- 手数料2350円

都道府県によって申請場所や詳細が異なるので、住民票所在地にある県警察のウェブサイトなどで確認しよう。

レンタカーの手配

● 日本で予約

レンタカーは、日本であらかじめ予約しておいたほうが安心だ。走行距離無制限で、現地で借りるよりお得なプランもある。車種の選択は、良好内容にもよるが、少人数ならコンパクトな車がおすすめ。田舎の狭い道や、曲がりくねった山道を走るときも楽で、駐車スペースも見つけやすい。フランスではマニュアル車を運転する人が多く、オートマ車を希望するなら指定を忘れずに。ナビゲーションシステムは通常搭載されている。

〈おもなレンタカー会社〉

ハーツレンタカー Hertz **TEL** 0120-489-882 **URL** www.hertz-japan.com
エイビスレンタカー Avis **TEL** 0120-31-1911 **URL** www.avis-japan.com

● 現地に着いたら

空港や大きな駅周辺には必ずレンタカーの営業所があり、すぐに車を借りることができる(英語可)。最終目的地での乗り捨ても可能。保険は、あらゆるケースに補償がつくFull Protectionに入っておくと安心だ。ちなみに、レンタカーでは車を借りることを「チェックアウト」、返すことを「チェックイン」という。



A40はフレンチアルプスを走るオートルート
©Catherine Leblanc / iStock / Getty Images

ヨーロッパで最も高いミヨ
橋は高速道路A75上にある
©JackF - stock.adobe.com



道路の種類

フランスの自動車道路はよく整備され、運転しやすい。全国に路線網を広げる高速道路(A、オートルート)は有料と無料のものがあり、料金は区間によって異なる。ほかに国道(N)、県道(D)があり、風景をゆっくり楽しみながらドライブしたいときは、多少回り道になっても、NやDを選ぶのも一案だ。



町の入口を示す標識(サンテミリオン)
©Delpixart / iStock / Getty Images



県の入口を示す標識(バラン県)
©Office GUIA

知っておきたいドライブルール

フランスと日本で若干違いがあるので気をつけたい。まず、左ハンドル、右側通行であること。慣れるまでは慎重に。走行速度は、高速道路では最高時速は110～130キロ、一般道では最高80キロ、市街地では30～50キロ(パリは30キロ)。沿道にはレーダーが設置され、スピード違反をすれば日本まで罰金の請求書が送られてくるので、くれぐれもご注意を。

道路標識はわかりやすいものが多いが、気をつけたいのが「ロータリー(ロン・ポワン Rond Point)」。複数の道路が放射線状に集まる円形の広場で、高速を下りた所、町なかなどに多数ある。一方通行で左回り。フランスでは通常、自分の車から見て右側の車の進入が優先されるが、「走行車優先」のロータリーもあり、注意が必要だ。

信号は縦表示で、やや低い位置にある。見落とさないように。



©Eric Bascol / iStock / Getty Images

ロータリーから枝分かれする道ごとに
行き先表示がある。信号待ちの必要がな
いので、慣れれば便利
©Office GUIA



高速道路の利用方法

主要都市間を長距離移動する場合は、高速道路を利用するとい。パカンス期の南仏や、出勤時間帯の大都市周辺を除けば、ほとんど渋滞することもなく、短時間で移動できる。

料金所は「ペーージュPéages」。「T」の表示があるのは、日本のETCカードと同じ自動精算レーンなので入らないこと。一般レーンでチケットを受け取るか、定額区間であれば料金をクレジットカードまたは現金で支払う。チケットを受け取った場合は、出口Sortieで提示された金額を支払う。



「料金所まで1000m」の標識
©ocean2508 / Getty Images



高速道路の料金所。「T」の表示の下は自動精算レーン
©AM-C / iStock / Getty Images



左は高速道路の行き先、右は高速道路の出口(35番、ブリニョル、ル・ヴァル方面)を示す標識
©Max Labeille / iStock / Getty Images



ドライブ旅行に使うフランス語

autoroute (オートルート)	高速道路
route nationale (ルート ナショナル)	国道
chemin départemental (シュマン デパルトマンタル)	県道
entrée (アントレ)	入口
sortie (ソルテイ)	出口
péage (ペーージュ)	料金所
aire de service (エール・ド・セルヴィス)	サービスエリア
aire de repos (エール・ド・ルポ)	パーキングエリア
est (エスト)	東
ouest (ウエスト)	西
sud (シュッド)	南
nord (ノール)	北
bouchon (ブション)	渋滞
parking (パルキング)	駐車場
station d'essence (スタシオン デサンス)	ガソリンスタンド
déviation (デヴィアシオン)	迂回路
toute directions (トゥット ディレクション)	全方面
autre directions (オートル ディレクション)	別方面
sans issue (サンズイシュー)	行き止まり
sens unique (サンジュニーク)	一方通行

おみやげも買えるサービスエリア

高速道路では、パーキングエリアが約20km、サービスエリアが約50kmごとにあるので、休憩をとりながら運転しよう。飲み物や軽食を取れるピクニックエリアがあるほか、その土地の郷土菓子など名産物も売っているの、お土産にしても。ガソリンスタンドが併設された所もある。



高速道路A64沿線にあるサービスエリア「エール・ド・レ・ピレネー Aire de Les Pyrénées」にはツール・ド・フランスをイメージした彫刻作品がある
©Office GUIA

パーキングの仕方

一般の駐車場のほかに、路上パーキングも利用できる。道路に書かれたPAYANT (有料) の字が目印。車を置いたら、近くに設置されているパーキングメーターで利用したい時間と車のナンバープレート (numéro de plaque) を入力し、現金またはクレジットカードで料金を支払う。プリントされたチケットが出てくるので、支払い済みであることがわかるよう、ダッシュボードの上に置いておく。

なお、"Livraison (リブレゾン)"と書かれてあるところは、商品搬送車の専用駐車区域なので、置かないように。

また、車をパーキングに残して観光に出かける際、荷物は外から見えない場所に置き、貴重品は車内に残さないこと。



「PAYANT」と書かれた路上パーキング
©PhillipMinnis / iStock / Getty Images

ガソリンはセルフで給油

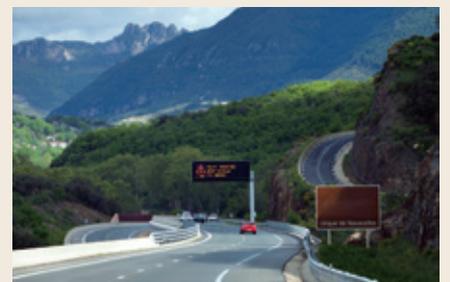
フランスのガソリンスタンドは、ほとんどがセルフサービス。自分で給油し、その場でカード決済、もしくは料金所で支払うシステムになっている。ディーゼル車でなければ、無鉛sans plombのガソリンを給油。ガソリンを満タンにして返す場合、返却日には時間に余裕をもちたい。特に、日曜日



「フランスの美しい村」を車で巡るのも一案
©Office GUIA

は閉まってしまうスタンドが多いため、週末にかかるときは注意したい。

フランス中央部を走る高速道路。近辺の名所を紹介するパネルが掲げられていることも
©brightstorm / iStock / Getty Images



フランスでの運転、実際はどんな感じ？



寺田直子さん

プロフィール

トラベルジャーナリストとして世界各地を飛び回り、雑誌、週刊誌、ウェブ、新聞などに寄稿する他、ラジオ出演、講演などをこなす。2021年から大島へ移住し執筆をしながらカフェを経営。フランスでのレンタカー経験は2015年～2019年と計7回。著作に『フランスの美しい村を歩く』（東海教育研究所）など。



アルザスのワイン街道も絶好のドライブルート © Naoko Terada

フランスはヨーロッパでも国土が広く、地域ごとの文化・特色があり飽きることがありません。

初めてのセルフドライブは交通網が複雑なパリからの運転が不安だったので、リヨン、マルセイユなど目的地の主要都市まで鉄道で移動。駅前でレンタカーを借りて周辺の村々をまわりました。これはストレスが少なくオススメです。カーナビ搭載のオートマ車を借りていましたが、自分の携帯のグーグルマップをナビとして活用。日本語で指示してくれるので本当に助かりました。

印象に残るドライブルートはリヨンからレマン湖畔の村イヴォワールへと続くA40号線。道幅も広く周囲の壮大な山並みを堪能しながら解放感たっぷりのなか、運転を楽しみました。休憩のため2～3時間ごとにサービスエリアに立ち寄るのですが、日本では見かけないジャンクなお菓子やスイーツを買うのも楽しみのひとつ。場所によっては地元の特産品なども並んでいて興味深いです。

「フランスの最も美しい村」を訪ねて感心したのは訪問客のための広い駐車場を設けているところが多かったこと。大型のキャンピングカーでもゆったり停めることができます。村から少し離れた場所にあるため景観を損ねることもなく、また道に不慣れた観光客が村の細い路地に迷いこむ不安もありません。私も村に着くとまずは駐車場のマークを探すことから始めていました。

夏の時期は道路が混むことはあるものの、夕暮れが21時頃と遅いのでたっぷり一日ドライブを楽しめるシーズン。ドラマチックなサン



プロヴァンス地方の美しい村ゴールド。広い駐車場に車を駐車し、街歩きをスタートできる © Naoko Terada

セットや急な雨の後にあらわれた虹など思いがけない美しい風景に出会い、車を停めて見入ることもありました。

行きたいところ、立ち止まりたい時間を自由に演出できるのがセルフドライブの魅力。レンタカーでの旅がフランスの奥深さを教えてくれたと思っています。



レマン湖畔に佇むイヴォワールは「花咲ける村」としても有名 © Naoko Terada



天空の村ゴールド。フランスでは道路沿いに展望スポットが設けられていることが多い © Naoko Terada

フランスでの運転は日本との交通ルールの違いや言葉の問題などで難しそうだと思う方も多いことでしょう。実際にフランスでの運転経験のある記者お二人に伺いました。



山口和幸さん

プロフィール

ツール・ド・フランス取材歴30年以上のスポーツジャーナリスト。現地取材は約1か月間、選手と同じコースを車で周り、フランスの形式と道を知り尽くしている。フランスでのドライブ総距離は地球4周分。延べ800泊。海外4県をのぞく全県（コルシカ2県含む）を訪問。著作に『講談社現代新書ツール・ド・フランス』がある。

絵ハガキをバラバラとめくっていくようなドライブ。フランスでハンドルを握るってことはそんな感じです。道端にクルマを駐めて美しい景観をカメラに納めたくりますが、フランスはどこも美しすぎるんです。そんなことばかりしていたら本来の仕事にならず、フランスの美しさに免疫をつけて素通りする勇気を身につけました。

広大な国土ゆえに道路の造りもゆったりしていて、また集落が出現したら減速をうながすなどの速度標識が絶妙で、それを守って運転していれば危ないことはありません。たまに道路が交わる場所に「ロンポワン」と呼ばれる環状交差点があって、それが日本にはなじみのない交通システムです。

フランスでの運転ルールとして覚えておくのが、優先道路が設定されていない十字路で2台のクルマが同時に進入してきた場合、運転席にいて右に見えたクルマに優先権があるので先を譲るということ。

ところがロンポワンでは逆になります。環状部を走っているクルマに優先権があるので、これから環状部に突入しようとするクルマは左側に見えたクルマであろうとも道を譲らなければなりません。

さらに、パリのエトワール凱旋門のような大規模なロンポワンでは、数十台が環状部にひしめく状態なので、最初の基本に戻って右に見えたクルマに進路を譲ります。さらに逆になるのです。ツール・ド・フランス取材でフランス一周5000kmを無事故で走ってきても、



モンサンミッシェル。赤いナンバープレートは外国人が免税で購入した新車につけられる ©Presssports.com



ピレネー山脈のオービスク峠。羊や牛、馬などが行く手を阻むが、それほど気にならない ©Presssports.com

毎年の最終日にこのエトワール凱旋門に突っ込むときは冷や汗が出ます。

ツール・ド・フランス取材時に使用するクルマはレンタカーではなく、自分名義の新車。フランスの自動車メーカー、プジョー、ルノー、シトロエンにはそれぞれ短期滞在の外国人が免税で新車を購入でき、帰国時に買い取ってくれるシステム※がある。その差額はレンタカーとほぼ同じで、保険はフルカバーなので利用価値は大。

フランスをクルマで旅をしていて感じるのは、ドライバーが歩行者やサイクリストの存在を常に尊重していることです。横断歩道で待つ人がいたらクルマは止まる。歩行者が感謝の気持ちを伝えたと、ドライバーは最高の笑顔を返してくれます。また、ドライバー自身も自転車経験はあるはずで、サイクリストがいたら風圧をかけないように減速したり、距離を開けて走行します。

道路構造の違いがあるので、日本においてフランスのやり方をすべて見習えとは言いませんが、ハンドルを握るとフランス人の博愛精神が手に取るように分かる。それってステキですよね。

※外国人が免税で新車を購入できるシステムについては山口さんの下記の記事が詳しい。
bit.ly/319N98K



ピレネー山脈の要衝ツールマレー峠。クルマを駐めるとカウベルの音が風に乗って聞こえてくる ©Presssports.com

まだ見ぬ絶景、 山と湖に心癒される道

La route pour vous
ressourcer entre
montagnes et lacs

クレルモン・フェラン～ピュイ・ド・ドーム～オルシヴァル～サン・ネクテール～ベス・エ・サンタナステーズ
～モンペイルー～ラヴォデュー～ブレル～ポリニャック～ル・ピュイ・アン・ヴレ
Clermont-Ferrand ~ Puy de Dôme ~ Orcival ~ Saint-Nectaire ~ Besse et Saint-Anastaise
~ Montpeyroux ~ Lavaudieu ~ Blesle ~ Polignac ~ Le Puy en Velay

フランス中央部、ピュイ・ド・ドーム山を中心とした火山が連なり、「マンフ・セントラル (中央山塊)」と呼ばれる一帯を巡る。ダイナミックな自然の景観を楽しみながら、美しい村や中世の遺構を訪ねるルート。



Auvergne
Rhône-Alpes
Tourisme

Auvergne Rhône-Alpes

オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ



ドライブ アドバイス



「中央山塊」と呼ばれる地方らしく、曲がりくねった山道を通ることが多い。十分気をつけて安全運転を心がけたい。また、同じ距離でも平坦な道より移動に時間がかかるため、ゆとりのあるプランニングを。

Press Contact

オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ
地方観光局
Auvergne Rhône-Alpes Tourisme
Rachel GREGORIS
R.Gregoris@auvergnerhonealpes-tourisme.com
URL www.auvergnerhonealpes-tourisme.com

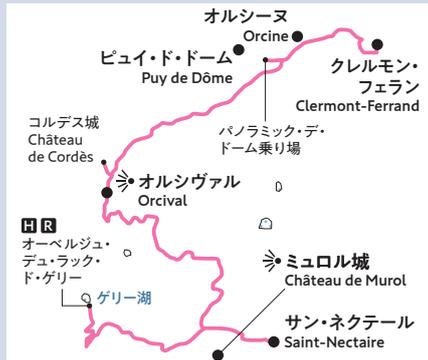


1 2018年、世界遺産に登録されたピュイ山脈の火山列 © J. Damase/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme 2 火山活動によって生まれた湖のひとつ、ゲリー湖 © Fanny Plane 3 ル・ピュイ・アン・ヴレで開かれる「鳥の王の祭り」 © J. Damase/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme 4 カンタルなどオーヴェルニュの産地限定 AOP チーズ © J. Damase/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme 5 ふたつの奇岩がそそり立つル・ピュイ・アン・ヴレの風景 © L. Olivier/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme

JOUR 1

オーヴェルニュの火山スペクタクルを山と湖で体感

オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏、オーヴェルニュ地方の中心都市クレルモン・フェランから、ユネスコの世界遺産にも登録されているピュイ山脈へ。さまざまな形状の火山が約80カ所も並び、最高峰のピュイ・ド・ドームからは、周辺の火山群を見渡す壮大なパノラマが広がる。



(走行距離)
クレルモン・フェラン〜ゲリー湖 約87km

現地観光局のURL

- クレルモン・オーヴェルニュ観光局
URL www.clermontauvergneturisme.com
- サンシー山塊観光局
URL www.auvergne-sancy.com

ビューポイントはここ！

① オルシヴァル Orcival

黒い聖母像が信仰を集めるロマネスク様式の教会で知られるオルシヴァルは、木々の緑に包まれた静かな村。



オルシヴァルのロマネスク教会 © Office GUIA

② ミュロル城 Château de Murot

オルシヴァルからD617経由でベス・エ・サンタナステーズに向かう途中D617Aに入ると、続くD5にミュロル城を眺められるパノラマポイントがある。



山々を見渡す場所に立つミュロル城 © F. Cormon/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme

オーヴェルニュ料理の伝統を伝える「レ・トック・ドールヴェルニュ」

オーヴェルニュのテロワールと料理の伝統を守り、現代性をもたせながら伝えていくことを目指し、1980年に設立された組織「レ・トック・ドールヴェルニュ Les Toques d'Auvergne」。メンバーとなっている約50名のシェフたちの店で、その料理を味わうことができる。

URL www.toques-auvergne.fr/



このマークが目印

午前

○ クレルモン・フェラン

出発地はクレルモン・フェラン Clermont-Ferrand。パリから列車で約3時間40分。前日までに市内観光を済ませておき、駅前でレンタカーを借りる。

● クレルモン・フェランの見どころ

火山が連なるピュイ山脈の麓にあり、2000年の歴史をもつ町。世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」の構成遺産でもあるノートルダム・デュ・ポール聖堂、ゴシック様式のノートルダム・ラソンプシオン大聖堂は必見。

○ クレルモン・フェラン→オルシーヌ→ピュイ・ド・ドーム

クレルモン・フェランからパノラマ列車(パノラミック・ド・ドーム Panoramique des Dômes)の出発地点であるオルシーヌ Orcineへ。駐車場に車を置き、列車でピュイ・ド・ドームの山頂へ。

URL www.panoramiquedesdomes.fr

● ピュイ・ド・ドーム Le Puy de Dôme

火山地帯の中心にそびえる標高1465mの頂上からは、中央山塊の最高峰であるピュイ・ド・サンシー Le Puy de Sancy (1886m)を含め、南北に整列した80の火山群を眺めることができる。

● ピュイ・ド・ドームの頂上でランチ

頂上には、3つのダイニングエリア(展望レストラン、セルフ式、ファストフード)があり、好みや予算に合わせて選べる。

URL <https://chezepicure.fr/restaurant-du-puy-de-dome/>

午後

○ オルシーヌ→オルシヴァル

● オルシヴァル Orcival

壮大な火山群を見た後はD942 経由でオルシヴァルへ。「オーヴェルニュのヴェルサイユ」と称されるコルデス城を経て、ロマネスク教会が美しい村の中心部へ(→ビューポイントはここ！)

▶ コルデス城 Château de Cordès

1695年、城主のイヴ・ダレーグルは、ヴェルサイユの庭園を設計したアンドレ・ル・ノートルの工房に造園を依頼。標高900mのユニークな庭園が誕生した。

URL www.chateau-cordes-orcival.com

○ オルシヴァル→ミュロル→サン・ネクテール→ゲリー湖

オルシヴァルからD74 経由でサン・ネクテール方面へ。オーヴェルニュのチーズ街道と称されるルートの途中、ミュロル Murot でチーズ農家を訪ねる。

▶ フェルム・ルー Ferme Roux

中世からの歴史をもつ熟成カヴァでA.O.P. サン・ネクテールを生産している、キャロリーヌ・ボレル Caroline BORREL さんを訪問。

URL www.les-caves-a-saint-nectaire.com/nous-contacter.html

● サン・ネクテール St-Nectaire

美しいロマネスク教会があることでも知られるチーズの里。

● ゲリー湖畔の「オーベルジュ・デュ・ラック・ド・ゲリー

Auberge du lac de Guéry」でディナーと宿泊

アウトドアが好きな人におすすめのオーベルジュ。ディナーでは、オーヴェルニュとモン・ドールの伝統に新しさを加えたシェフ、パスカール・ウルトー Pascal Heurteau の料理を味わえる。

URL www.auberge-lac-guery.fr



クレルモン・フェランのノートルダム・ラソンプシオン大聖堂を望む © Atout France/Nathalie Baetens



火山群の中にあるピュイ・ド・ドーム © F. Cormon/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



フランス式庭園を持つコルデス城 © J. Damase/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



サン・ネクテールチーズ © L. Combe/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme
サン・ネクテールの村 © S. Gonon/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



大自然に抱かれたゲリー湖 © G. Fayet/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



大自然を満喫できる「オーベルジュ・デュ・ラック・ド・ゲリー」 © Guéry
レストランでは湖で捕れたマスのアーモンド添えムニエルを © Guéry



オーヴェルニュの郷土料理

ル・ピュイ・アン・ヴレ名産のレンズ豆と塩漬けにした豚肉を煮込んだ「プティ・サレ le petit salé aux lentilles du Puy」、ジャガイモとベーコンを炒めた中に、トムフレッシュチーズを混ぜ込んだトリュファード la truffade」などが代表的なオーヴェルニュ料理だ。

左:とろけたチーズがジャガイモに合うトリュファード © P. Soissons/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme 右:レンズ豆のサラダ © Beegoo/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme

JOUR 2

オーヴェルニュ地方における「フランスの最も美しい村」へ

ロワール河畔にたたずむ城、「フランスの最も美しい村」に登録された村、中世が息づくロマネスク教会、鐘楼、回廊……。オーヴェルニュの至宝が散りばめられ、旅する理由がいくらかでも見つかるルートだ。



アンスタン・ダブソリュ

（走行距離）

ゲリー湖～ブレル 約162km

地方観光局のURL

- ベス・エ・サンタナステーズ（サンシー山塊）観光局

URL www.auvergne-sancy.com/destination/all-destinations/besse

- モンペイルー観光局

URL <https://www.issoire-tourisme.com/ja-decouvre/terre-de-patrimoine/les-plus-beaux-villages-de-france>

ビューポイントはここ！

① モンペイルー村 Montpeyroux

ベス・エ・サンタナステーズからモンペイルーに向かう道筋、丘の上に築かれた村の全景を望むことができる。モンペイルー城を中心に、オレンジ色の屋根が連なる村の景観が美しい。

そびえ立つモンペイルー城の塔からは、火山の稜線を見渡せる © pah-norbert-dutranoy



豊かな自然に囲まれてたたずむ村 © J. Damase/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



中世が息づく村 ブレルBleste

「フランスの最も美しい村」に登録された村。石造りと木骨組みが混じった家々が並ぶ道には、今も中世の時間が流れているかのよう。修道院のもので栄えた中世の時代に思いをはせながら村を散策したり、ヴォワズル川沿いの道を歩きながら、景色を楽しみたい。

午前

○ゲリー湖→ベス・エ・サンタナステーズ →モンペイルー

ゲリー湖で気持ちのよい朝を迎えたあとは、車で30分ほどの所にあるベス・エ・サンタナステーズへ。そのあと、D978を経由し「フランスの最も美しい村」に認定されたモンペイルーへ。

●ベス・エ・サンタナステーズ Besse et Saint-Anastaise

細い石畳の道の両側に、火山岩の石材で建てられた家が並ぶ村。長らくメディチ家の支配下にあった村で、カトリヌ・ド・メディシスがアンリ2世と結婚したことで、フランス王家とも関わりをもつようになった。サンタンドレ教会、鐘楼など、中世とルネサンスの歴史遺産を巡りながら、散策を楽しみたい。

●モンペイルー Montpeyroux

アリエ川のほとり、高台の上に築かれた村。20世紀初頭までアールコースと呼ばれる花崗砂岩の産地として栄え、当時の石切場が残っている。花崗砂岩を積み上げた家々が寄り添うなかにそびえ立つ古城の主塔、陽光を受けて黄金色に輝く岩のある景観は、典型的なオーヴェルニュの村でありながら、どこか南国の雰囲気を漂わせている。

午後

●モンペイルーの「ル・ビストロ・ゼン Le Bistrot ZEN」でランチ

地元生産者とのみ仕事をし、素材にこだわるシェフ、シリル・ゼン Cyrille ZENのクリエイティブな料理を味わえる。

URL <http://lebistrotzen.com>

○モンペイルー→ラヴォアデュ

モンペイルーを出発、高速道路A75でLempdes-sur-Allagnonまで南下、さらにN102を経由してラヴォアデュへ。時間があれば、モンペイルー～イソワールIssoire間で高速道路を下りて、サンティヴォワンス Saint-Yvoine村の景観を楽しんでも。

●ラヴォアデュ修道院 L'abbaye de Lavaudieu

1057年に創設されたベネディクト会修道院を訪ねる。14世紀イタリア派の壁画、オーヴェルニュロマネスクの傑作とされる、12世紀建造の回廊、修道院を見下ろす八角形の鐘楼は必見。内部の見学は、ラヴォアデュの観光案内所でガイド付きツアーを予約すること。

○ラヴォアデュ→ブレル

ラヴォアデュからD20-D588を経由してブレルへ。

●ブレルBleste

9世紀に創設されたベネディクト会修道院によって発展した村。今も残るサン・ピエール大修道院付附属教会から、当時をしのぶことができる。同時期にメルケール男爵によって建てられたブレル城は、主塔（ドンジョン）や村を囲んでいた城壁の一部が残っている。

●ブレルのホテルレストラン

「ラ・ブーニャット La Bougnate」でディナーと宿泊

「トック・ド・ヴェルニュ」(→P.9)のメンバーでもあるシェフのドミニク・デュブレ Dominique Dubrayは、オーヴェルニュの伝統を尊重しつつ、正統派の料理を提供している。とりわけ肉料理は絶品。食後は、ブレルの村の景色を眺めることのできるホテルでリラックス。

URL <https://www.labougnate.fr>



ブレル村にある「ラ・ブーニャット」
© La Bougnate



ベス・エ・サンタナステーズの全景
© J. Damase/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



石造りの家々が並ぶモンペイルー
© J. Damase/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



石造りの天井が中世風の「ル・ビストロ・ゼン」
© Pierre Soissons - Bistrot Zen à Montpeyroux



「ル・ビストロ・ゼン」のメイン料理はポリウムたっぷり
© Ludovic Combe - Bistrot Zen à Montpeyroux



ラヴォアデュの村
© J. Damase/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



ブレル村の家並み
© Luc Olivier/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme

この人に会いたい！



2日目の夜、さらに静謐な自然環境に身を置きたい人におすすめしたいのがベッシュ湖畔の宿、エコロッジ&スパ「アンスタン・ダブソリュ Instant d'Absolu」。豊かな自然に包まれ、心身ともにリラックスできる場所だ。ブレルから約45分。
URL www.ecolodge-france.com

「アンスタン・ダブソリュ」の共同設立者
ローランス・コスタさんと
ダニエル・シーゲルさん

美しい自然のなかで、オーナーふたりが温かくもてなしてくれる。
© Wildbirds Collective



大自然との一体感が得られるスパ
© Jérôme Mondière

JOUR 3

注目すべき史跡と聖域都市を訪ねる

中世の巡礼路の起点ともなっているル・ピュイ・アン・ヴレの見事なモニュメントに触れ、美しい村を訪ね、名産の品をお土産にするなど、オーヴェルニュの魅力に浸る1日に。



(走行距離)

ブレール〜ル・ピュイ・アン・ヴレ 約84km

地方観光局のURL

- ル・ピュイ・アン・ヴレ観光局
URL www.lepuyenvelay-tourisme.fr
- オート・ロワール県観光局
URL www.auvergnevacances.com

ビューポイントはここ!

① ポリニャック Polignac

ル・ピュイ・アン・ヴレ方面に向かう途中眺められるポリニャックの要塞は、村から高さ100mの岩山の頂上にあり、壮大な景色に目を奪われる。要塞から見渡すヴレ盆地の眺めもすばらしい。

堅固な要塞で守られたポリニャック
© Luc Olivier



② ル・ピュイ・アン・ヴレ Le Puy en Velayの景観

ル・ピュイ・アン・ヴレは、ふたつの奇岩の頂に聖母像と礼拝堂が立つという独特の風景で知られている。エミール・ルー病院センター Centre Hospitalier Emile Roux (12, bd. Dr. André Chantemesse) 近くから、奇岩と大聖堂を同時に眺めることができる。



コルネイユ岩山(奥)とサン・ミッシェル岩山(手前) © L. Olivier/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme

午前

○ブレール→ポリニャック

ブレールからN102経由でポリニャックへ。

●●●ポリニャック Polignac

終点となるル・ピュイ・アン・ヴレに入る前に、町の手前にあるポリニャックの要塞 Forteresse de Polignacを訪ねる。火山岩でできた堅固な岩山の頂に築かれた中世の要塞で、周囲を見渡し、支配するかのような威容を見せている。



要塞を取り巻くポリニャックの村 © Luc Olivier

○ポリニャック→ル・ピュイ・アン・ヴレ

ポリニャックからD13経由でル・ピュイ・アン・ヴレへ。到着したらまず眺望ポイントへ(→ビューポイントはここ!)

●●●ル・ピュイ・アン・ヴレ Le Puy en Velay

ル・ピュイ・アン・ヴレは、世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステラの巡礼路」のフランスにおける4つの起点のうちのひとつ。「ヴィア・ポディエンシス(ル・ピュイの道)」の出発点として、多くの巡礼者を迎えている。



ル・ピュイ・アン・ヴレの遠景 © L. Olivier/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme

午後

●●●ル・ピュイ・アン・ヴレのレストランでランチ
ランチにおすすめのレストランを2件紹介しよう。町の観光に便利な駐車場に車を置いて、徒歩で回るといいだろう。

▶ Conseil Départemental de Haute Loireの駐車場

住所 1, pl. Monseigneur de Galard

▶ レストラン「レモシオン L'Emotion」

「レ・トック・ドーヴェルニュ」(→P.9) 加盟店。幼なじみのふたりのシェフ、ミカエル・ルア Michaël Ruat とミカエル・メジャン Mickaël Méjean が、地元の素材を使った料理を提供。

URL www.restaurant-lemotion.fr

▶ レストラン「トゥールネイル Tournayre」

「レ・トック・ドーヴェルニュ」(→P.9) 加盟店。12～16世紀の館の中にあり、地方色豊かな料理を楽しめる。

URL www.restaurant-tournayre.com/fr/1,12399.html



「レモシオン」の入り口 © L'Emotion



盛り付けも美しい「レモシオン」の料理 © L'Emotion



レンズ豆を使った「トゥールネイル」の料理 © Tournayre



「トゥールネイル」の中世の雰囲気が漂う空間 © Tournayre

●●●ル・ピュイ・アン・ヴレ観光

ランチのあとは、ル・ピュイ・アン・ヴレの歴史遺産をめぐる。

▶ ノートルダム・デュ・ピュイ大聖堂 Cathédrale Notre Dame du Puy 大聖堂と周辺はユネスコの世界遺産「サン・ティアゴ・デ・コンポステラ巡礼路」の構成遺産として保護されている。

▶ オテル・デ・リュミエール Hôtel des Lumières à l'hôtel Dieu オテル・デュ内にある光のスペクタクルが楽しめる場所。

URL www.hoteldeslumieres.com

▶ ノートルダム・ド・フランスの像 Notre Dame de France

1860年、クリミア戦争中にロシア人から奪った213門の大砲の金属で造られた聖母子像。

▶ サン・ミッシェル・デギューユ礼拝堂 Chapelle Saint Michel d'Aiguille 火山活動によって生まれた高さ82mの岩に礼拝堂が立つ。

▶ クロザティエ・レーズ博物館 Musée Crozatier

ル・ピュイ・アン・ヴレの名産品であるレーズや美術品を展示。

●●●ル・ピュイ・アン・ヴレでレンタカーを返却。

ル・ピュイ・アン・ヴレイから空港のあるリヨンまではTERで約2時間30分。1泊して翌日リヨンに向かうプランがおすすめ。



ライトアップされた夜景も美しいノートルダム・デュ・ピュイ大聖堂 © L. Olivier/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



ノートルダム・ド・フランスの像 © F. Cormon/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme

光の祭典

「ピュイ・ド・リュミエール Puy de Lumières」

夏の間(2021年は7/1～9/12)、日没後、ル・ピュイ・アン・ヴレにあるおもなモニュメントで、音と光によるショーが開催される。町全体が舞台となる華やかなイベントだ。無料。

URL www.puydelumieres.fr



映像が映し出された礼拝堂 © L. Olivier/Auvergne-Rhône-Alpes Tourisme



ル・ピュイ・アン・ヴレのレーズ



伝統製法で編まれるレーズ © Luc Olivier

「レーズの町」としても知られるル・ピュイ・アン・ヴレ。編み針ではなく、特別な器具を使用して糸を組み合わせさせて編むのが大きな特徴。ハンドメイドの繊細なレーズ製品をお土産にしたいは、「Boutique La dentelle du Puy」などで購入できる。

URL www.ladentelledupuy.com/notre-boutique-luxe

昔の面影の残る街を 横切る現代

Traversée
moderne d'un
vieux pays

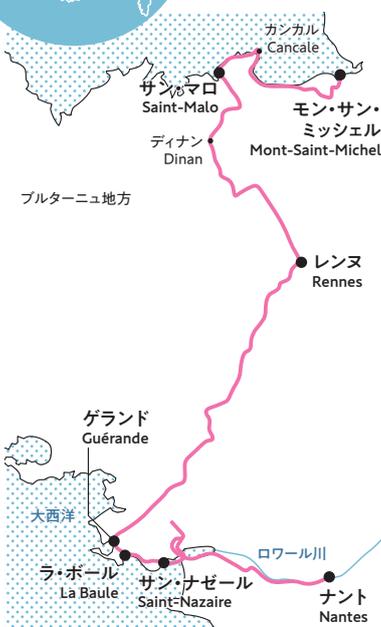
ナント～サン・ナゼール～ラ・ボール～レンヌ～ディナン～サン・マロ
Nantes ~ Saint-Nazaire ~ La Baule ~ Rennes ~ Dinan ~ Saint-Malo

フランス西部、ペイ・ド・ラ・ロワール地方からブルターニュ地方にかけて、
過去と現代を交差しながら北上し、最後はサン・マロへ。
古都と文化遺産、現代アート作品が点在する河畔を巡る、
詩情あふれるルートだ。



Bretagne

ブルターニュ



2



3



4



5

ドライブ アドバイス

平坦な道が多く、運転しやすいルート。歴史的な背景から、ブルターニュ地方では高速道路の料金が無料なのもうれしい。ナント、ディナン、レンヌ市内は、車を駐車して徒歩での観光がおすすめ。運河沿いの細い道进行くこともあるので、小型の車を借りたほうが運転しやすいだろう。

Press Contact

ル・ヴォワイヤージュ・ア・ナント
LE VOYAGE A NANTES

Xavier THERET
Xavier.THERET@lvan.fr

URL <https://voyage-en-bretagne.com/>
(昔の面影の残る街を横切る現代)

1 ロワール河畔に展示されたインスタレーション「海へビ」ファン・ヨンビン-河ロプロジェクト芸術作品 ©FRANCK TOMPS/LVAN

2 石造りの家が並ぶ美しい村ベジュレル ©Franck Tomps / LVAN

3 木骨組みの家が残るレンヌの旧市街の通り Rue du Chapitre ©Franck_Hamon

4 グランドの塩田風景 ©AlexandreLamoureux

5 ブルターニュ大公城 ©Patrick Messina/LVAN

JOUR 1

ロワール河畔に沿って 現代アートの道をたどる

現代アートの町として生まれ変わったナントからロワール川に沿って河口へと進み、河畔に展示されたインスタレーションを鑑賞。河口の町サン・ナゼールを経由、海辺のリゾート、ラ・ポールまで。



（ 走行距離 ）

ナント～サン・ナゼール～ラ・ポール 約84km

現地観光局のURL

- ナント観光局
URL www.levoyageanantes.fr
- サン・ナゼール観光局
URL www.saint-nazaire-tourisme.com
- ラ・ポール観光局
URL www.labaule.fr

ビューポイントはここ！

- 1 ナントの町を出る手前に設置された、川俣正の作品「エルミタージュの展望台」。息をのむような町の眺望が眼下に広がる。



川俣正作「エルミタージュの展望台 Belvédère de l'Hermitage」
© Martin Argyroglo / LVAN

- 2 ロワール川を渡るフェリーに乗船する際、北岸にある村、ル・ペルラン Le Pellerin の眺めを楽しめる。



ル・ペルランの村
© Ville du Pellerin

午前

○ ナント

出発地はナントNantes。パリから飛行機を乗り継いでナント空港、もしくはパリから高速列車TGVでナントへ。前日までに市内観光を済ませておき、駅前レンタカーを借りる。

● ナント市内アート散歩

ドライブの出発点となるのは、創造性の首都、ナント。中世にはブルターニュ公国の首都であった町で、近年は、芸術・文化による町の再生に取り組み、「アートの町」として知られるようになった。

▶ブルターニュ大公城 Château des Ducs de Bretagne

1598年、アンリ4世が宗教戦争を集結させる「ナントの勅令」を発令した場所。現在は、ナントの歴史を展示した博物館になっている。

▶ル・ヴォワイヤージュ・ア・ナント Le Voyage à Nantes

市内の各所に置かれた120を超えるアート作品、歴史遺産を結ぶ散策コース（略称VAN）。路上に描かれたラインをたどって訪ねる。

▶レ・マシーン・ド・リル Les Machines de l'Île
フランソワ・ドゥアラロジエールとピエール・オレフィスが考案した、機械仕掛けの生き物たちが迎えてくれる遊園地。



「レ・マシーン・ド・リル」では機械仕掛けの象に乗ることができる © Franck Tomps / LVAN



サン・ナゼールの港近くに展示されたインスタレーション「カニ、足、プルオーバー、消化器官、エンジン」 © Franck Tomps / LVAN

○ ナント→サン・ナゼール

● ロワール河岸の現代アート巡り

ナントからサン・ナゼールまで、ロワール川沿いに「エスチュエールESTUAIRE（河口の意）」と名付けられたアーティスティックなコースが設けられている。ロワール河畔に展示された常設の現代アート作品と出合いながらのドライブコース。ナントからD107を経由して北側の河岸を走ると、流れに流されているように見える「ロワールの家 La Maison de la Loire」が見える。クエロンCouëronでバックBacと呼ばれる小型のフェリーで対岸のル・ペルラン Le Pellerinへ。マルティニエール運河 Canal de la Martinièreで「想像不能 Misconceivable」を見たら、D77経路でサン・ナゼールに向かう。サン・ナゼール橋 Pont de Saint-Nazaireを渡る前後に、「海へビ Serpent d'Océan」「カニ、足、プルオーバー、消化器官、エンジン Crabe, Le pied, le pull et le système digestif, Le Moteur」を観るのを忘れなく。

▶エスカル・アトランティック Escal' Atlantique

かつての潜水艦基地を利用した船の体験型ミュージアム。昔の豪華客船の中を探索して、当時の優雅な船旅気分を疑似体験できる。

URL www.saint-nazaire-tourisme.com/les-visites/les-sites-de-visite/escalatlantic/



「エスカル・アトランティック」の再現された客船のメインダイニング © DR

午後

● 「ラ・マール・オ・ゾワゾー La Mare aux Oiseaux」でランチ

野生の自然が保護されたブリエール自然公園近くにある。星付きシェフ、エリック・ゲランがプロデュースする料理を堪能できる。

URL www.mareauxoiseaux.fr



Oiseauxは鳥のこと。鳥かごがインテリアに使われている「ラ・マール・オ・ゾワゾー」
© M.Cellard



湿原を小舟で巡ることもできるブリエール自然公園 Le Parc Naturel Régional de Brière
© Martin Argyroglo

○ サン・ナゼール→ラ・ポール

サン・ナゼールからD92経路でラ・ポールへ。途中、海岸沿いを走る。

● ラ・ポール La Baule

美しい湾、9kmにわたって続くビーチで知られる人気のリゾート。海岸沿いには、大西洋のパノラマを堪能できるホテルが並ぶ。

● 「ル・エム Le M」でディナー

ブルターニュ産の生ガキやその日入荷した素材によって変わる一品料理を味わえる。

URL www.mlabaule.com



ラ・ポールのビーチ
© Alexandre Lamoureux / LVAN

● ラ・ポールの「ル・カステル・マリー・ルイズ Le Castel Marie Louise」で宿泊

ラ・ポールの海岸からすぐという理想的なロケーションにある。

URL www.hotelsbarriere.com/fr/la-baule/le-castel-marie-louise.html



邸宅に招かれた気分になる「ル・カステル・マリー・ルイズ」
© fabrice-rambert



ラ・ポールの海岸からも近いレストラン「ル・エム」 © DR



シードルボウルをおみやげに

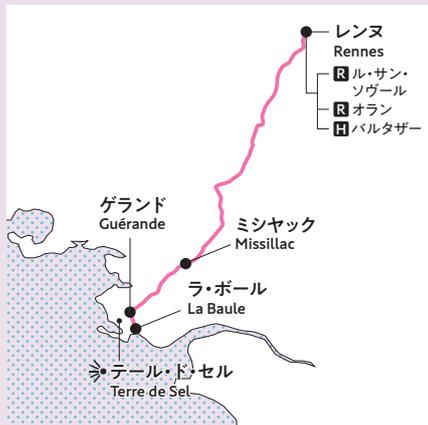
ブルターニュ地方のお酒といえば、リングから造られる発泡酒シードルCidre。グラスではなく、「ボルbo」と呼ばれる陶製のカップで飲むのがブルターニュ流だ。ボルはみやげ物店などで買うことができる。

ブルターニュの民族衣装が描かれたボウル © DR

JOUR 2

海、塩田、川、水辺の風景を巡る

さまざまな水辺の風景を訪ねる1日。美しい自然が守られ、ブルターニュらしさが色濃く残る田舎を巡れば、心が安らぎ、幸せな気持ちに包まれることだろう。



（ 走行距離 ）
ラ・ポール～レンヌ 約130km

現地観光局のURL

- ラ・ポール-ブレスキル・ド・ゲランド観光局
URL www.labaule-guerande.com/votre-office-de-tourisme.html
- レンヌ観光局
URL www.tourisme-rennes.com

ビューポイントはここ！

① ゲランドの天日塩田

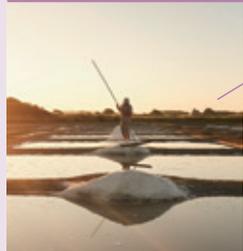
Marais salants de Guérande

ラ・ポールとゲランドの間に広がる広大な塩田は圧巻。水面に最初に結晶した塩「フルール・ド・セル（塩の花）」をかき取る様子が見られることも。

パッチワークのような、独特の景観
©Alexandre Lamoureux



この人に会いたい！



6月から9月にかけて、長い木の竿を使って塩を収集する「パリュディエ」と呼ばれる浜子の姿を見ることが出来る。ベテランの浜子クリストフ・アナハイムさんに会えたら、プロの仕事を間近で見せてもらおう。

伝統的な製法が受け継がれている ©Alexandre Lamoureux

午前

○ラ・ポール→ゲランド

ラ・ポールを出発し、フランスで最も有名な塩を産出するゲランドへ。

●ゲランド Guérande

中世から塩の貿易で栄えた古都。4つの門を持つ見事な城壁で取り囲まれた町の中は、中世の趣を今も残している。

●ゲランドの塩田見学

ゲランドから南西に6分ほど走ると、湿地帯に広がるゲランドの塩田に出る。太陽と風の力だけで海水の水分を蒸発させるという伝統製法で作られる「ゲランドの塩」は、ミネラルが豊富で風味が良く、その質の高さは世界的に知られている。塩田内には車では入れないので、手前で車を駐車しておくこと。

▶テール・ド・セル Terre de Sel

D92沿いにある、塩田の仕組みや歴史、自然環境の保護について、わかりやすく展示したスペース。塩の製法について紹介しているほか、ガイド付きツアーを実施している。

URL www.terredesel.com/fr/

○ゲランド→レンヌ

ゲランドを出てD51経由でレンヌRennesへ。途中D2沿線の村ミシヤックMissillacに立ち寄り、水辺に建つブレットシュ城Château de la Bretescheの写真を撮っておきたい。水辺のピトレスクな道を通ったら、レンヌまでD177を經由し北上を続ける。

午後

●レンヌの「ル・サン・ソヴールLe Saint Sauveur」でランチ

木骨組みの家がレストランに。平日のランチでは、2品（前菜+メインまたはメイン+デザート）つくフォルミュルFormuleが提供される。

URL <https://restaurant-lesaintsauveur.fr/>

●レンヌ観光 Rennes

ブルターニュ地方の中心都市で、古くから交通の要衝として栄えてきた。旧市街には戦争の被害を免れた15～16世紀の家並みが残る。ブルターニュ高等法院、タボール庭園を訪れたあとはヴィレレーヌ川沿いに歩き、川面に影を落とす近代建築「マビレイの建築 bâtiment la Mabilay」を見ておきたい。

▶旧市街

火災、戦災の被害を免れた木骨組みの家並みが残る。とりわけ、シャピトル通りrue du Chapitre、シャン・ジャケ通りRue du Champ Jacquet、サンタンヌ広場Place St-Anneは保存状態がよく、絵になる一角。

▶ブルターニュ高等法院

1552年に高等法院として建設され、現在は裁判所となっている。豪華な装飾が施された大法廷などを見ることが出来る。

▶タボール庭園

元ベネディクト会修道院の庭であった、広さ10haの公園。バラ園やフランス式の庭園がある。

●「オランHolen」でディナー

ホテル「バルタザール」の近くにあるレストラン。地元産、BIOにこだわった旬の素材を使い、繊細に仕上げている。

URL <https://restaurant-holen.fr>

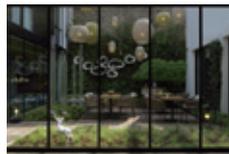


「オラン」でディナーを © Franck Hamon / Destination

●「バルタザールBalthazar」で宿泊

レンヌの中心街でありながら静かな通りに面したホテル。スパを備え、シックなインテリアも魅力的。

URL <https://hotel-balthazar.com>



「バルタザール」の中庭 ©DR



ラ・ポールのビーチ ©Alexandre Lamoureux / LVAN



©Alexandre Lamoureux



雰囲気の良いテラス席もある「ル・サン・ソヴール」 ©DR



レンヌ、シャン・ジャケ通りの家並み ©Martin Argyroglo



高等法院の綺羅びやかな装飾 ©Martin Argyroglo



タボール庭園 ©Bruno_MAZODIER



マビレイの建築 © Franck Tomps / LVAN



具で楽しむそば粉のガレット

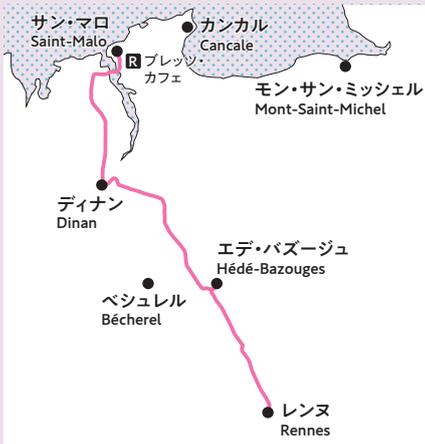
ブルターニュに来たら必ず食べたいのが「そば粉のガレットLa galette bretonne」。有塩バターを使った香ばしい生地、サーモン、チーズなど具をたっぷり挟んだガレットは、ランチにぴったり。

サン・マロのクレープリー「ブレッツ・カフェ」のガレット・ブルトン ©gwenael saliou

JOUR 3

ブルターニュの歴史をたどる1日

3日目のルートは、歴史遺産に焦点を当て、要塞化された町、石畳の通りと木骨造りの家、城壁、ほかにないビューポイントなどを巡る。



(走行距離)

レンヌ～サン・マロ 約85km

現地観光局のURL

● サン・マロ観光局

URL www.saint-malo-tourisme.com

ビューポイントはここ！

① エデ・バズージュの11の水門 11 écluses d'Hédé-Bazouges

レンヌからサン・マロに向かう途中にある町、エデ・バズージュから、11の水門を持つ運河が延びている。のどかな田園風景と延々と続いていく運河がよくマッチしている。



運河に沿って散歩を楽しみたい
©Franck Tomps / LVAN



ドライブ行程はサン・マロで終わるが、約75km先にあるモン・サン・ミッシェルを加えて歴史の旅を延長することも可能だ。その場合、サン・マロからエメラルド海岸の海岸線をたどってポワント・デュ・グロアン Point du Grouin、カキの生産地カンカルCancalleを経由していくルートがおすすめ。



モン・サン・ミッシェル
©Franck Tomps / LVAN



カンカルのカキ
©Office GUIA

午前

- レンヌのマルシェ「ラ・クリエ中央市場」へ
朝は、レンヌ市民から愛される屋根付き市場「ラ・クリエ La Criée Marché Central」へ。レンヌ名物の「ガレット・ソシス(ソーセージを巻いただけのシンプルなガレット)」も売っている。20世紀初頭に建てられたレトロモダンな建築にも注目。



カフェやレストランが並ぶレンヌのサンタンヌ広場
©Julien Mignot

○ レンヌ→エデ・バズージュ

レンヌを出たら、D137を経由して北上する。途中、エズ・バズージュで運河を見学。パーキングは「メゾン・デュ・カナル・ディル・エ・ランス Maison du Canal d'île et Rance」に隣接してある。

▶ エデ・バズージュ Hédé-Bazouges

11の水門が連続する運河「カンカル・ディル・エ・ランス」沿いにある町。「メゾン・デュ・カナル・ディル・エ・ランス」ではガイド付きツアーもやっている。

URL <https://maisonducanal.bzh/>



エデ・バズージュ ©Franck Tomps / LVAN.JPG

○ エデ・バズージュ→ディナン

エデ・バズージュを出たら、D137をさらに北上、途中D794に入って西へ。ディナンを目指す。

● ディナン Dinan

中世の要塞都市の面影を残す古都。町を取り囲んでいた城壁の一部が残り、その上を歩くこともできる。ランス川につながるジェルズアル通り rue du Jerzual はかつて商人たちで賑わった通り。木造の美しい建築物が並ぶ必見の場所だ。



15～16世紀の家々が残るディナン
©Franck Tomps / LVAN

午後

○ ディナン→サン・マロ

ディナンからN176を北上してサン・マロへ。

● クレープリー「ブレッツ・カフェ Breizh Café」でランチ

バター専門店などグルメな店が集まるオルム通り rue de l'Ormeに面したクレープリーで、ソバ粉のガレットを。

URL <https://breizhcafe.com/en/>



ジェルズアル通りから続くプチ・フォール通り
rue du Petit Fort ©Franck Tomps / LVAN

● サン・マロ観光

カナダを発見したジャック・カルティエをはじめ、数々の冒険者たちを見送った港町。17世紀には、「コルセール」と呼ばれる公認の海賊によって大きな富を得た。「アントラミュロス」と呼ばれる旧市街は、戦災で8割を失うほどの被害を受けたが、瓦礫を一つひとつ積み上げて再建、元の美しい家並みが蘇った。旧市街内にはクレープリーやレストラン、ショップも多く、食事やショッピングを楽しめる。

▶ 城壁 Remparts

12世紀から建てられ始めた城壁は、町を外敵から守る要塞の役割を果たしていた。現在は上を歩くことができ、エメラルド色の海と海岸線を見渡せる。

▶ 歴史博物館 Musée d'Histoire de la Ville

15世紀に建てられた城の塔。サン・マロ出身の作家、シャトーブリアンなどの資料や町の歴史を展示している。塔の上に上れば、町を一望できる。



ブレッツ・カフェの店内 ©gwenael saïou

● サン・マロで車を返却。

サン・マロからパリへは
TGVで2時間20～50分



干潮時には歩いて渡れる旧要塞
©Franck Tomps / LVAN



城壁に囲まれた旧市街「アントラミュロス」
© Alexandre Lamoureux / LVAN



美しい村ベシュレル Béchereil

エデ・バズージュの西にあるベシュレル。人口660人ほどの小さな村だが、なんと15軒もの本屋があり、「本の村」として知られている。カフェを併設した本屋もあり、散策が楽しい。本好きならぜひ訪れたい村だ。

石造りの家が並ぶ村の景観も美しい。©Franck Tomps / LVAN

ぶどう畑と小さな村 夢溢れる道

La route de
rêve qui sillonne dans
les vignobles et
les petits villages

ストラスブール～オベルネ～ミッテルベルグハイム～ベルグハイム～リクヴィル～ユナヴィル
～リボーヴィレ～カイゼルスベルグ～エギスハイム～コルマール
Strasbourg～Obernai～Mittelbergheim～Bergheim～Riquewihr～Hunawihr
～Ribeauvillé～Kaysersberg～Eguisheim～Colmar

フランス東部、ドイツと国境を接するグラン・テスト地域圏のアルザス地方は、
ワインの一大産地として知られる。

ヴォージュ山脈の東斜面に連なるぶどう畑の合間を縫って、
点在する可愛らしい村々を訪ねながら「アルザス・ワイン街道」をドライブ。



EXPLORE
EASTERN
FRANCE

Grand Est

グラン・テスト



ドライブ アドバイス

南北に流れるライン川に沿って、高速道路、国道、ワイン街道を形成する県道が平行して走っており、プランに合わせてルートを選択したい。ワイン街道沿いの村々は15分ほどで移動でき、効率よく組めば、1日で多くの村を訪ねることができる。

Press Contact

グラン・テスト地方観光局
AGENCE RÉGIONALE DU TOURISME
GRAND-EST

Anouck Sittre
anouck.sittre@art-grandest.fr
URL www.explore-grandest.fr

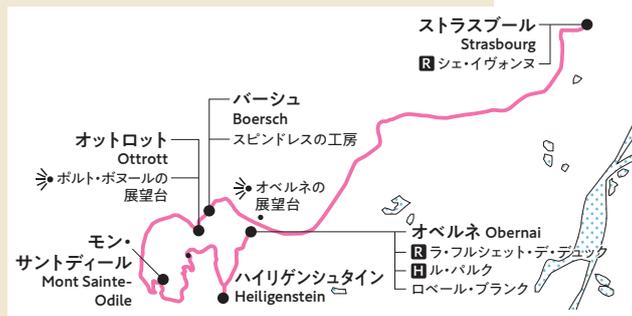


- 1 ブドウ畑から眺めるオベルネ ©OT Obernai
- 2 花で彩られたリボーヴィレの村 ©Lez Broz - Visit Alsace
- 3 ストラスブールのノートルダム大聖堂 ©Istock
- 4 ニーデルモルシュヴィル周辺のぶどう畑 ©Tristan Vuano
- 5 コルマールのカラフルな家並み ©ART GE - Pierre Defontaine

JOUR 1

美しく色づくぶどう畑を 展望スポットで楽しむ

グラン・テスト地域圏、アルザス地方の中心都市ストラスブールから、中世の趣が残るオベルネへ。ワイン街道沿いに広がるぶどう畑を、沿道の展望スポットから一望する。



(走行距離)
ストラスブール～オベルネ 約68km

現地観光局のURL

- ストラスブール観光局
URL www.visitstrasbourg.fr
- オベルネ観光局
URL www.tourisme-obernai.fr/fr/

ビューポイントはここ!

① オベルネの展望台 Le Belvédère

第二次世界大戦の犠牲者を追悼するモニュメントLe Memorial Nationalの近くに、展望台が設けられている。オベルネの町と周辺のパノラマを満喫できる。

プトララン(観光用ミニトレイン)で上れる
©OT Obernai



② ポルト・ボヌール Porte Bonheur

ロスハイムRosheimとサン・ナポールSaint-Nabor間に、廃線跡を利用した11kmのハイキングコースがあり、途中の展望台「ポルト・ボヌール」で、眺望を楽しむことができる。



大自然を見渡せる場所にある
©CH.HAMM

ポルト・ボヌールの展望台
©CH.HAMM

午前

○ストラスブール

出発地はストラスブールStrasbourg。パリから高速列車TGVで約1時間50分。市内観光のあと、駅前でレンタカーを借りる。

●ストラスブール観光

ストラスブールは「街道の町」を意味し、ヨーロッパのほぼ中央に位置することから「ヨーロッパの十字路」とも称される。ライン川支流のイル川に囲まれた部分は、「グランディールGrand île」と呼ばれる旧市街。木骨組みの家々が並ぶ「ブティット・フランスPetit France」など、フォトジェニックな風景が展開する。

▶フード&シティツアー

グルメを楽しみながらストラスブールの魅力を発見するツアー。公認ガイドが、必見の場所はもちろん、知られざる物語も紹介しながら町を案内してくれる。アルザスの名物菓子など、グルメスポットも巡る。ストラスブール市民病院の地下にあり、600年以上の歴史をもつワインカーヴ Cave Historique des hospices civilsを訪問することも可能。貴重な体験となるはず。

URL <https://strasbourgfoodtours.com>

URL www.vins-des-hospices-de-strasbourg.fr

午後

「シェ・イヴォンヌ Chez Yvonne」でランチ

「ヴィンステュブwinstub」と呼ばれる、郷土色たっぷりのワインビストロ。1873年の創業以来愛されてきた老舗で、シュークルートなどアルザスの伝統料理を味わえる。

URL www.restaurant-chez-yvonne.net/fr/Winstub-Alsacien-Strasbourg

○ストラスブール→オベルネ

車を借り、高速道路A35でオベルネへ。オベルネから周辺の見どころを午後いっぱい回るプラン。

●オベルネ Obernai

城壁に囲まれたワイン街道沿いの小さな町。マルシェ広場を中心に、さまざまな時代の建築物が並ぶ。町を一望するなら、ミニトレインで上れる展望台へ。(→ビューポイントはここ!)

▶ドメーヌ・ブランク domaine Blanck

1732年からぶどうを栽培していたという家族経営のドメーヌ。カーヴを見学し(要予約)、アルザスワインの試飲とショッピングを楽しめる。

URL <https://blanck-obernai.com>

●オベルネ周辺のドライブ

D322、D35経由でオベルネ周辺をぐるっと回り、オベルネに帰る。

▶スピンドレルの寄木細工アトリエ Maqueterie d'Art Spindler

バーシュ Boerschにあるシャルル・スピンドレルCharles Spindlerのギャラリーに立ち寄る。寄せ木の技術を使って制作された装飾品や家具、アート作品を見ることができる。

URL www.spindler.tm.fr/fr/

▶モン・サントディール Mont Sainte-Odile

標高753mの頂にあり、展望スポットともなっている女子修道院。

●オベルネの「ラ・フルシェット・デ・デュック La Fourchette des ducs」でディナー

ブガッティの創始者であるエットーレ・ブガッティがルネ・ラリックなど錚々たるメンバーに依頼したという、創業時の内装が残る店。

URL <http://www.lafourchettedesducs.com/fr/>

●オベルネのホテル「ル・バルク Le Parc」に宿泊

2500㎡もの敷地をスパ施設にあって、さまざまな賞を受賞するなど高い評価を得ているホテル。

URL www.leparchotel.fr/fr/hotel-spa-alsace



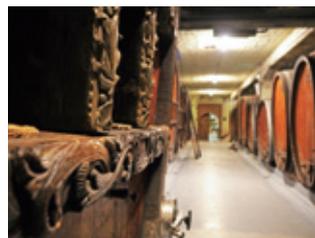
ストラスブールの町並み ©Lez Broz - Visit Alsace



フード&シティツアーでワインテイasting
©Philippe Trebia pour Food & City Tours



アルザスらしき満点の「シェ・イヴォンヌ」



歴史が刻まれたドメーヌ・ブランクのカーヴ
©OT Obernai



D35からRue Charles Spindlerに入った所にあるスピンドレルのアトリエ ©SPINDLER



アルザスの守護聖人である聖オディール(サントディール)の像が立つ ©Office de Tourisme d'Obernai



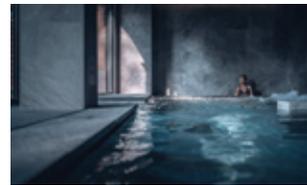
ドイツ色が濃い郷土料理

いく度もドイツ領となったアルザス地方では、塩漬け発酵させたキャベツと豚肉を煮込んだシュークルートなど、ドイツ色を感じさせる料理が名物になっている。軽く食べたいときは、薄い生地にタマネギとベーコンを載せて焼いた「タルトフランベ」がおすすめ。

左:タルトフランベ ©ART GE - Creutz 右:シュークルート ©Klaudia lga



リビングにいるようなくつろぎを感じさせる「ラ・フルシェット・デ・デュック」の内装 ©Ch. Hamm



「ル・バルク」のスパ「ヨナグニ」
©NIS&FOR, LE PARC HOTEL OBERNAI & YONAGUNI SPA

JOUR 2

アルザスグルメを味わいながら 景勝ルートをたどる

オベルネからワイン街道の村リクヴィルまで、アルザスの名物を楽しみながら南下。途中、ヴォージュ山脈の斜面に建つオークニクスブール城に上り、大パノラマを満喫する。



(走行距離)
オベルネ～リクヴィル 約66km

現地観光局のURL

●リボーヴィレ・リクヴィル観光局
URL www.ribeauville-riquevillir.com

ビューポイントはここ！

① ミッテルベルグハイム Mittelbergheim

標高220mの丘陵地にある村。「フランスの最も美しい村」のひとつに認定されており、ぶどう畑越しに眺める村の風景がすばらしい。



URL www.paysdebar.fr/fr/les-communes/mittelbergheim

ミッテルベルグハイム村のたたずまい
©CDumoulin_OTBB

② サンティポリットとリボーヴィレの間

サンティポリットSaint-HippolyteとリボーヴィレRibeauvilleを結ぶワイン街道ルートD1Bは、ぶどう畑が広がるパノラマルート。道路脇に車を寄せられる場所があれば、車を下りてみる。



秋には黄金色に輝くぶどう畑の間をドライブできる
©ARTGE-P.Defontaine



知られざる美しい村ベルグハイム Bergheim

ぶどう畑が広がる丘陵地にある美しい村。観光客にあまり知られていない村で、木骨作りの家々が並ぶ路地をゆっくり散歩できる。村に残る14世紀の城壁に沿って2kmの散歩道が設けられており、説明パネルを見ながら村の歴史をたどることができる。



城壁に囲まれたワイン造りの村
©Quentin Gachon



村の中は石畳の道が入り組む
©Quentin Gachon

午前

○オベルネ→ゲルトヴィレール →ミッテルベルグハイム

●「リップ」のパン・デビスをお土産に

オベルネからD1422を南下、ゲルトヴィレールGertwillerへ。「リップLips」でパン・デビス(スパイスを使ったアルザス名物のお菓子)の世界に触れる。パン・デビスや郷土菓子、伝統名産品に関する小さな博物館を併設している。

URL www.paindepices-lips.com

●美しい村ミッテルベルグハイム

D362を南下し、沿道にあるミッテルベルグハイムへ。ブドウ畑に囲まれた村で、ツォツェンベルグZotzenbergの銘醸ワインでも知られる(→ビューポイントはここ!)

午後

●「ラ・クロンヌ」でランチ

D35を経由しシェルヴィレールScherwillerへ。「ラ・クロンヌLa couronne」でランチ。リースリングのスープ Soupe au Riesling、タルト・フランベ(→P.17)がスペシャルティ。

URL www.couronne.com

○シェルヴィレール→オークニクスブール城

D159経由でオークニクスブール城へ。城から300m離れた所に150台収容できる無料パーキングがある。

▶オークニクスブール城観光

ヴォージュ山脈の標高750m地点に建てられた城塞。一時は荒廃していたが、20世紀初頭に修復工事が行われ、誰もが思い描く中世のイメージそのままの城塞が蘇った。塔の上からは、ヴォージュ山脈の裾野に広がるアルザスの大平原を見渡すことができる。

URL <https://www.haut-koenigsbourg.fr>

○オー・クニクスブール城→ベルグハイム

→ゼランベール

D1Bを経由し、美しい村ベルグハイム(→下記コラム)に立ち寄ったあと、ゼランベールZellenbergにあるアルザスワインの老舗ドメヌへ。

●「ドメヌ・ベッカー」でショッピング

ゼランベールにあるドメヌ・ベッカー Domaine Beckerでワインのテイステイング。13代に渡る家族経営で、アルザスのブドウ園で最も古い7つのファミリーのひとつ。日本語が通じ、日本への発送も可能だ。

URL www.vinsbecker.com

○ゼランベール→リクヴィル

D1B、D3.2を経由して街道きっての人気観光地リクヴィルへ。

●リクヴィルRiquevillir

村のたたずまい、木骨組みの整った家並み、花に彩られた窓辺など、アルザスワイン街道の魅力がすべて詰まった村。

●「ジャン・リュック・ブレンデル」で

ディナーと宿泊

1つ星レストラン「ジャン・リュック・ブレンデル Jean Luc Brendel」でディナー。野菜の世界にインスピレーションを得た料理を楽しめる。日曜のランチに寄る行程なら、ランチ後シェフが菜園を案内する特別プランもある。市内にある同グループのホテルカジャンブル・ドットに宿泊。

URL www.jlbrendel.com/fr



お菓子の家のような「リップ」
©CDumoulin_OTBB



クリスマス菓子にもなっている
パン・デビス
©CDumoulin_OTBB



温もりを感じさせる「ラ・クロンヌ」の内装
©Restaurant La Couronne-Scherwiller



「ラ・クロンヌ」の
タルト・フランベ
©CreHome



ヴォージュ山脈で採石された石で造られた城
©Tristan Vuano



選び方など気軽に相談できる「ドメヌ・ベッカー」
©Vincent Muller

この人に会いたい!



マルティヌ・ベッカーさん
©Pierre & Jean-Paul

ゼランベールにある「ドメヌ・ベッカー」は、1610年以来、ジャン・ベッカー家が経営するワイナリー。1999年からは有機栽培を導入している。日本語を話せるマルティヌ・ベッカー Martine Beckerさんは、アルザスワインの魅力、情熱をもって語ってくれる。

ドメヌ・ベッカー Domaine Becker
URL www.vinsbecker.com



「ジャン・リュック・ブレンデル」のレストラン
©DR



ホテルは部屋ごとに内装が異なる
©DR

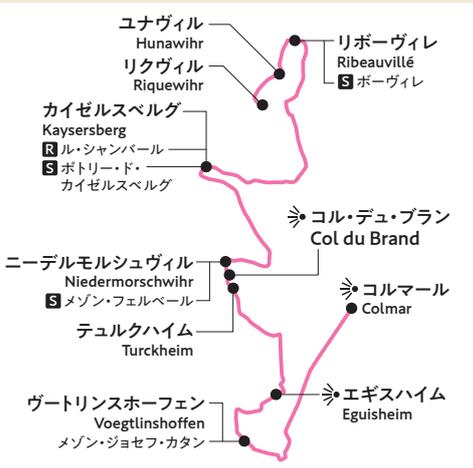


野菜にこだわった料理
©Lucas MULLER

JOUR 3

ワイン街道沿いの村と古城を巡る

最終日は、3つの古城があるリボーヴィレ、中世からルネサンス期にかけての建築が残るカイゼルスベルグや花の村エギスハイムを訪ね、ジャムなど土産選びも楽しみながら、ゴールの科尔マルへ。



(走行距離)

リクヴィル〜コルマル 約55km

現地観光局のURL

●カイゼルスベルグ観光局

URL www.kaysersberg.com

●エギスハイム観光局

URL www.tourisme-eguisheim-rouffach.com

ビューポイントはここ!

① エギスハイム近くのぶどう畑

エギスハイム Eguisheim とヴァートリンスオーフェン Voegtlinshoffen の間で、ぶどう畑が目前に迫る風景を見ることができる。車から下りて、散歩するのに最適な場所。



エギスハイム村の周囲に広がる広大なぶどう畑 ©Tristan Vuano

② コルマルのプチット・ヴニーズ

プチット・ヴニーズ Petit Venise とは「小ヴェニス」を意味する。イタリアのヴェネツィアを彷彿させる運河沿いの一角で、パステルカラーの家並みが続く絵画的な風景に出合える。



ボワソニエール河岸の風景 ©ART GE - Pierre Defontaine

午前

○リクヴィル→ユナヴィル→リボーヴィレ

リクヴィルから北に延びる細い道をたどり、近郊にあるユナヴィルを訪ねたあと、リボーヴィレへ。

●ユナヴィル Hunawir

「フランスの最も美しい村」に登録された、典型的なアルザス街道の村。切妻屋根を持つ木骨組みの家々の多くは、16世紀から18世紀に建てられたもので、驚くほど美しく保存されている。

●リボーヴィレ Ribeauvillé の3つの城巡り

ヴォージュ山脈の麓にあるリボーヴィレに残る3つの城を訪ねる。14世紀、村の城壁とともに建設されたもので、今も中世の村を見下ろしている。所要2.5時間のハイキングコース、または45分のショートコースで巡ることができる。

○リボーヴィレ→カイゼルスベルグ

リボーヴィレからD18を走り、カイゼルスベルグへ。

午後

●カイゼルスベルグの「ル・シャンバル Le Chambard」でランチ

カイゼルスベルグのホテル「ル・シャンバル」にあるレストランでランチ。2つ星レストランとよりカジュアルなヴィンステュブがある。「ヴィンステュブ・デュ・シャンバル Winstub du Chambard」ではアルザスの伝統的な料理を味わえる。

URL <https://www.lechambard.fr/fr/>

●カイゼルスベルグの「ポトリ・ド・カイゼルスベルグ

Poterie de Kaisersberg」でショッピング

陶芸家フィリップ・トマン Philippe Thomann によるアルザスの伝統菓子クグロフの焼き型を購入。カラフルなクグロフ型はインテリアにも使える。

URL <http://www.poteriekaysersberg.fr>

○カイゼルスベルグ→ニールモルシュヴィル

→エギスハイム

D415、D107を経由、ニールモルシュヴィル、エギスハイムへ。

●ニールモルシュヴィル Niedermorschwihr の

「メゾン・フェルベール Maison Ferber」へ

ジャムの女王、クリスティヌ・フェルベールの店へ。アルザス産の果物を使ったジャムは、果実本来の味が生かされた新鮮な味わい。

URL <https://www.christineferber.com>

●花の村エギスハイム

「フランスで最も美しい村」や「花の村」に登録されている人気の村。カラフルな家や花に彩られた路地の散歩がおすすめ。

○エギスハイム→ヴァートリンスオーフェン→コルマル

エギスハイムからD14経由でヴァートリンスオーフェン Voegtlinshoffen へ。そのあと最終地のコルマル Colmar へは、まっすぐ延びるD83、D30で直行する。

●「メゾン・ジョセフ・カタン Maison Joseph Cattin」で試飲

ヴァートリンスオーフェンにあるワインバー。ルーフトップバーで展望を楽しみながら、ワインを試飲できる。

URL <https://www.cattin.fr/oenotourisme/le-belvedere/>

●コルマル駅で

レンタカーを返却。



エギスハイムのシャトー広場 ©Zvardon



絵本の中から飛び出したような風景 ©Istock



3つの城のひとつサン・キュリック城 ©Tristan Vuano



「フランス人が好きな村」にも選ばれたことのあるカイゼルスベルグ ©Sergey Dzyubia - Adobe Stock



ワイン居酒屋風の「ヴィンステュブ・デュ・シャンバル」 ©Lukam



アルザスに飛来するコウノトリの絵が描かれたクグロフの型 ©Cyrille Fleckinger



クリスティヌ・フェルベールさんとジャム ©Bernhard Winkelmann



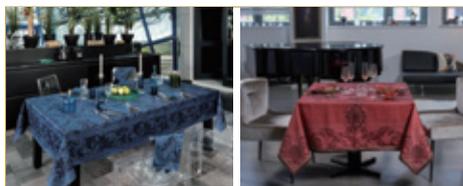
周囲のパノラマとワインの両方を満喫できる「メゾン・ジョセフ・カタン」 ©Cattin Grands Vins d'Alsace



ボーヴィレのクロスとリネン

フランスのリボーヴィレを2世紀以上にわたり拠点としているリネンのブランド「ボーヴィレ Beauvillé」。ラグジュアリー、品質、伝統を合わせもつ高級ブランドとして、その地位を確立している。繊細で優雅な柄のテーブルクロスなど、部屋に華やぎを与えてくれる。

URL <https://www.beauville.com>



高級感のあるボーヴィレのクロス ©Beauville

La route qui
relie l'ère
romaine
au présent

古代ローマから続く 雄大な歴史を辿る道

トゥールーズ～アルビ～カルカソンヌ～ナルボンヌ
～マルセイラン～ポン・デュ・ガール～ユゼス～ニーム
Toulouse ~ Albi ~ Carcassonne ~ Narbonne ~ Marseillan ~ Pont du Gard ~ Uzès ~ Nîmes

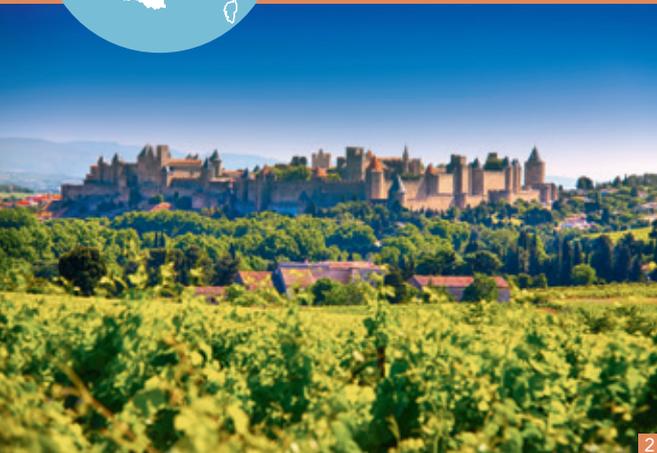
スペインと国境を接するフランス南西部に広がるオクシタニー地域圏。
トゥールーズ、カルカソンヌ、ミディ運河など、
数々の歴史遺産や美しい村を訪ねながら、風光明媚な道をたどる。



Occitania
Sud de France

Occitania

オクシタニー



ドライブ
アドバイス



のんびりとした田舎道も交えたドライブルート。起伏は比較的緩やかなルートだが、アルビからカルカソンヌに向かう際に通るD118は山道となる。ナルボンヌからニームへは「ラ・ラングドシエンヌ」の名称で呼ばれるオートルートA9を走る。適宜休憩をとりながら目的地に向かいたい。

Press Contact

オクシタニー地方観光局

Comité Régional du Tourisme et
des loisirs d'Occitania

Birgitte Reimers

birgitte.reimers@crtooccitania.fr

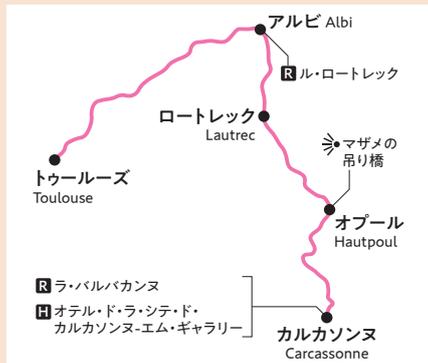
URL www.tourisme-occitania.com

- 1 古代ローマの水道橋「ポン・デュ・ガール」
©Aurélio RODRIGUEZ-Site de Pont du Gard
- 2 カルカソンヌの城塞 ©G.DESCHAMPS - CRT Occitania
- 3 司教都市アルビの全景 ©Christophe BOUTHÉ-Pierre BÉHAR Balloide Photos - Ville d'Albi
- 4 ミディ運河 ©G.DESCHAMPS - CRT Occitania
- 5 トゥールーズの町並み ©Arnaud Späni - OT de Toulouse - CRT Occitania

JOUR 1

ユネスコの世界遺産をめぐる1日

オクシタニー地方の中心都市トゥールーズから、画家トゥールーズ・ロートレックの故郷アルビ、美しい村ロートレック、ルート上の景勝スポットに立ち寄り、ヨーロッパ最大規模を誇る城塞都市カルカソンヌへ。



(走行距離)

トゥールーズ～アルビ～カルカソンヌ 約190km

現地観光局のURL

- トゥールーズ観光局
URL www.toulouse-tourisme.com
- アルビ観光局
URL www.albi-tourisme.fr
- カルカソンヌ観光局
URL www.tourisme-carcassonne.fr

ビューポイントはここ!

① ロートレック村 Lautrec

アルビの南30kmに位置する村。中世の遺跡と建築遺産で「フランスで最も美しい村」に認定されている。「ラ・フェルメ・オ・ヴィラージュ La Ferme au Village」にはバステルの染色工房やブティック、名物のバラ色のニンニクを味わえるレストランがある。

URL www.lafermeauvillage.fr



中世の趣が残る階段 ©D.-Vijorovic



バラ色のニンニク ©Christine CHABANETTE - CRT Occitanie

② マザメの吊り橋 pont suspendu à Mazamet

アルビから60km、マザメの吊り橋 pont suspendu à Mazamet (マザメ歩道橋 la passerelle de Mazamet) は、アルネット峡谷を渡る高さ70m、長さ140mの空中にある散歩道で、ちょっとしたスリルを味わえる。



高所恐怖症の人はご注意ください ©Beziat Luc

午前

○ トゥールーズ Toulouse

れんが造りの建物が並び「バラ色の町」と称されるトゥールーズが発点。オクシタニー地域圏の首都であり、フランスで4番目に大きな町。2023年ラグビーワールドカップ開催都市でもある。見どころも多く、歴史遺産から航空や宇宙に関するテーマパークまで多彩。出発の前日までに観光しておきたい。

▶ キャピトル Le Capitole

1760年に完成。トゥールーズの市庁舎とオペラ座が入った町のシンボリック存在。壁画や天井画で覆われた2階の大広間は無料で見学できる。

▶ サン・セルナン・バジリカ聖堂 Basilique Saint-Sernin

ユネスコ世界遺産に登録された「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」の構成遺産に登録されている。

▶ ガロンヌ川、ミディ運河 Le Garonne, Canal du Midi

夕景の美しいガロンヌ川河岸や、世界遺産のミディ運河沿いを散歩するのもおすすめ。



ガロンヌ河岸の風景 ©Patrice THEBAULT-CRT Occitanie



サン・セルナン・バジリカ聖堂はロマネスク建築の傑作 ©Patrice THEBAULT - CRT Occitanie

○ トゥールーズ→アルビ

「バステル高速道路」と名付けられた快適なオートルートA68でアルビへ。

● アルビの町を散歩

2012年に旧市街、サント・セシル大聖堂、ベルビー宮殿 Palais épiscopale がユネスコの世界遺産に登録されたアルビ。この町で生まれた画家トゥールーズ・ロートレックの美術館も訪れたい場所。土曜日ならマルシェをお見逃しなく。

▶ サント・セシル大聖堂 Cathédrale Ste-Cécile

高さ40mもの壁をもつ堅固な造りの大聖堂。巨大なフレスコ画「最後の審判」は必見。

▶ トゥールーズ・ロートレック美術館 Musée Toulouse-Lautrec

13世紀に建てられた司教館、「ベルビー宮」を利用した美術館。



アルビのサント・セシル大聖堂 ©Dominique VIET - CRT Occitanie



レンガ色の路地にたたずむレストラン「ル・ロートレック」 ©Restaurant le Lautrec

● アルビの「ル・ロートレック Le Lautrec」でランチ

ロートレックの生家の近くにあるレストラン。スペシャリテは低温で干し草を燻製したタルン子牛のステーキ Le pavé de veau du Tarn fumé au foin en basse température、季節のキノコ、蒸し野菜の盛り合わせ、ガヴァッシュクリーム crème de Gavache, méli-mélo de légumes anciens à la vapeur。

URL www.restaurant-le-lautrec.com

午後

○ アルビ→ロートレック→マザメ→カルカソンヌ

アルビから県道を利用、美しい村ロートレックとオーブル、ビューポイントのマザメに立ち寄りながら、カルカソンヌまで南下する。

● 城塞都市カルカソンヌ

「カルカソンヌを見ずして死ぬな」と言われるほどの威容を誇る、ヨーロッパ最大規模の城塞都市。1997年には世界遺産に登録された。中世の都市の典型とされる「シテ Cité」は、「バステード・サン・ルイ」と呼ばれるカルカソンヌ市街の反対側に戻ると、ブドウ畑越しの景観を楽しめる。

● 「ラ・バルバカンヌ La Barbacane」でディナー

ミシュラン1つ星レストラン。シェフ、ジェローム・リヨンの地元食材を使った料理を、オクシタニー地方の優れたワインとともに堪能できる。夏は素晴らしい景色を楽しむテラス席での食事がおすすめ。

URL <https://www.cite-hotels.com/en/etablissements/restaurant-la-barbacane.html>



1泊すればライトアップされた城塞も見ることができ ©Aude Pays Cathare

● 「オテル・ド・ラ・シテ・ド・カルカソンヌ-エム・ギャラリー Hôtel de la Cité de Carcassonne - Mgallery」泊

19世紀にネオゴシック様式で建てられたブティックホテル。テラスからはカルカソンヌの城塞が目前に迫り、まるで映画のなかのような気分させてくれる。

URL <https://all.accor.com/hotel/8613/index.en.shtml>



クラシックな内装の「ラ・バルバカンヌ」 ©cite-hotels



オテル・ド・ラ・シテ・カルカソンヌ-エム・ギャラリー ©cite-hotels



丘の上にある中世の村オーブル Hautpoul

300m以上の高さをもつ岩山の頂に、民家が寄り添う中世の村。413年、西ゴート族の王によってつくられた。十字軍とカタリ派の戦いの跡を伝える遺跡が残り、中世の趣を残す路地を散歩できる。「処女の岩」もしくは古城のテラスからマザメの町を一望できる。

URL www.tourisme-tarn.com/patrimoine-culturel/hautpoul/

オーブル村の印象的なたたずまい ©L-Frezouts

JOUR 2

ピレネー山脈、広大な自然公園など 南西フランスの大自然を満喫するルート

世界遺産に登録されている「ミディ運河」を見学したら、ナルボンヌに向けて東へドライブ。ナルボネーズ地域自然公園からの雄大な眺めはもちろん、市場で地元グルメを味わうのも楽しい。



(走行距離)

カルカソンヌ～ナルボンヌ～マルセイラン 約135km

地方観光局のURL

●ナルボンヌ観光局

URL <https://www.narbonne-tourisme.com>

●マルセイラン観光局

URL <https://www.marseillan.com>

ビューポイントはここ！

① ミディ運河 Canal du Midi

カルカソンヌからナルボンヌに向かう途中トレブ Trèbes に立ち寄り、ミディ運河 (1996年ユネスコ世界遺産に登録)を見学。17世紀、太陽王ルイ14世の命で、大西洋と地中海を結ぶ交易路として造られた運河で、現在はボートクルーズや散策コースとして親しまれている。



カルカソンヌからのミニクルーズも楽しめるミディ運河
©G.DESCHAMPS - Aude Pays Cathare

② バージュ村 Village de Bages

ナルボネーズ地域自然公園la Parc Régional Naturel de la Narbonnaise内、湖沼を見下ろす岩の上にある村。対岸から眺めると、ピレネー山脈を背景にした、息を呑むような景色が広がる。マルセイランに向けて出発する前に立ち寄りたい。



湖畔にたたずむ村バージュ
©G.DESCHAMPS - CRT Occitanie

午前

○カルカソンヌ～トレブ～ナルボンヌ

カルカソンヌを出たあとは、トゥールーズ～ナルボンヌ間を結ぶA61を東へ。ミディ運河を見るためトレブ (→ビューポイントはここ!) に立ち寄り、ナルボンヌへ。

●ナルボンヌ観光

ナルボネーズ地域自然公園の中心部に位置するナルボンヌ。古代ローマ時代からの歴史を持つ町で、昔から交通の要所として重要な役割を果たしてきた。町にはミディ運河に通じるロビーヌ運河が流れる。

▶サン・ジュスト・エ・サン・パストゥール大聖堂

Cathédrale Saint-Just et Saint-Pasteur

13～14世紀に建てられた、南フランスでは珍しい本格的なゴシック様式の大聖堂。

▶ナルボ・ヴィア博物館 Musée Narbo Via

2020年にオープンした考古学博物館。

URL narbovia.fr

▶屋内市場 Les Halles de Narbonne

南西フランスの名産物が揃う活気ある市場。



ナルボンヌ 大聖堂 ©Lisa DEBANDE-Office de Tourisme de Narbonne



ナルボンヌの屋内市場
©Laurie BIRAL - Ville de Narbonne

午後

●市場内にある「シェ・ベベル Chez Bebel」でランチ。

オーナーのジル・ベルゾンさん、父も元ラグビー選手というラグビー家が経営するレストラン。オープンキッチンの活気あふれる店内で、ボリューム満点のステーキや肉の串焼きを味わえる。

URL www.chez-bebelle.fr



気さくな雰囲気の「シェ・ベベル」 ©Bebelle

○ナルボンヌ～フォンフロワド修道院

～バージュ～マルセイラン

ナルボンヌから近郊にあるフォンフロワド修道院を訪ね、ナルボネーズ地域自然公園の景勝を楽しみつつ、宿泊地のマルセイランに向かう。

▶フォンフロワド修道院 Abbaye de Fontfroide

ナルボンヌから約20分。1000年前、修道僧たちがコルビエール渓谷に建てた修道院。かつては経済的にも恵まれ隆盛を極めたが、フランス革命後は荒廃の一途をたどった。20世紀初頭、ギユスターヴ・ファイエ Gustave Fayet が修道院を購入して修復。元の美しさが蘇った。現在はワイナリーも併設し、多くの訪問客を迎えている。春から秋にかけては、植物と山塊の祭り、中世、音楽と歴史の祭り、国際蘭祭り、展示会など、さまざまなイベントが開催される。

URL www.narbonne-tourisme.com/narbonne-fontfroide-la-decouverte-des-sommets-de-l-histoire

▶バージュ村 Village de Bages

フォンフロワド修道院から約30分。バージュ＝シジャン沼沿いにD105を辿っていくと現れる (→ビューポイントはここ!)

●マルセイランMarseillanの「ル・サン・バルト Le Saint Barth」でディナー

トー・ラゲーンlagune de Thauの端にある、古いカキ養殖小屋を改装したレストラン。タルブリエッシュ Tarbouriechのカキを味わうことができる。

URL www.lestbarth.com

●マルセイランの「ドメーヌ・タルブリエッシュ Domaine Tarbouriech」に宿泊

洗練されたインテリアは客室ごとに趣が異なり、好みに合わせて選択できる。真珠色の部屋、日本風、あるいはガーデンロッジタイプもある。

URL www.domaine-tarbouriech.fr



ル・サン・バルト
©Saint Barth

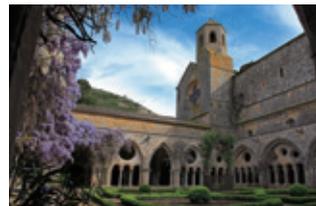


ブドウ畑に囲まれたドメーヌ・タルブリエッシュ
©Domaine Tarbouriech

この人に会いたい!

ナルボンヌのマルシェ内にあるレストラン「シェ・ベベル」のオーナーであり、元ラグビー選手。オーダーが入ると、隣の肉屋から飛んで来る肉をキャッチ。まるで競技場にいるかのようなひとときを、おいしいグリル料理とともにランチで味わおう。

元ラグビー選手
ジル・ベルゾン
Gilles Belzonsさん
©Bebelle



フォンフロワド修道院の回廊
©Edgar de Puy Georama - Aude Pays Cathare



コスメグッズが人気、パステル製品

「テール・ド・パステル Terre de Pastel」のパステルをベースにしたエコロジカルなコスメライン「Bleu par Nature」はおみやげにおすすめ。パステルの魅力を紹介するテール・ド・パステル博物館Muséum Terre de Pastelもあり、アトリエを見学できる

URL www.terredepastel.com/fr/

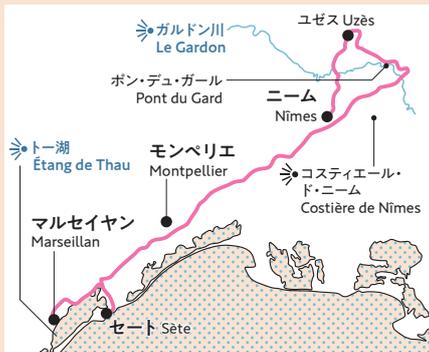
Bleu par Nature® のボディクリーム ©F.Sonnnet / Bleu par Nature



JOUR 3

古代ローマの壮大な遺構を巡る

スケールに圧倒される古代水道橋ポン・デュ・ガールから「フランスの中のローマ」と呼ばれるニームへ。旅の締めくくりは、2000年以上の時間が刻まれた、古代ローマの遺跡の数々を訪ねる。



（ 走行距離 ）

マルセイラン～ポン・デュ・ガール～ユゼス～ニーム 約180km

地方観光局のURL

- ユゼス／ポン・デュ・ガール観光サイト

URL www.uzes-pontdugard.com

- ニーム観光局

URL www.nimes-tourisme.com

ビューポイントはここ！

① トー湖 Étang de Thau

マルセイランから、トー湖と地中海の間を走る県道D2をセート方面に進むと、湖と海に挟まれた絶景が広がる。



ブドウ畑越しに望むトー湖
©G.DESCHAMPS - CRT Occitanie

② ニーム近郊のブドウ畑

ニーム近郊には、ラングドックワイン「コスティエール・ド・ニーム」のブドウ畑や果樹園が広がる。季節によっては木々が色づき、鮮やかな色に染まることも。ポン・デュ・ガールの下を流れるガルドン川 Le Gardon 河岸の景色もおすすりだ。



霧がかかったコスティエール・ド・ニームの風景
© Christophe Grilhe - AOC Costières de Nîmes - CRT Occitanie

午前

○ マルセイラン→セート

トー湖の眺め（→ビューポイントはここ！）を満喫したあとは、「ラングドックの小ヴェネツィア」と称され、運河沿いの風景がフォトジェニックなセートへ。



「ジュット」と呼ばれる水上競技が行われることでも知られるセートのロワイヤル運河
©Dominique VIET-CRT Occitanie

○ セート→ポン・デュ・ガール

1985年にユネスコによって世界遺産に登録されたポン・デュ・ガールへ（135km）。

▶ ポン・デュ・ガール Pont du Gard

ローマ時代、ユゼスの北東1kmほどの所にあるユールの泉から、ニームに飲料水を送るために造られた水道橋。全長約50kmある導水路の一部で、高さ50m、全長275mという壮大な建築物だ。アーチが連なる3つの階層からなる水道橋は、周囲の自然環境と調和し、美しい景観で訪れる人を魅了している。上を歩いて渡ることも可能だ。



世界で最も高い水道橋ポン・デュ・ガール
©Aurélio RODRIGUEZ - Site de Pont du Gard

午後

● ポン・デュ・ガールのレストラン「レ・テラス Les Terrasses」

水道橋の全景を眺めながら食事を楽しめる絶景レストラン。ニーム名物である干し鰯料理「ブランダード Brandade」などを味わえる。

URL www.pontdugard.fr/fr/restauration



木陰になった心地よいテラス席でランチを
©Aurélio RODRIGUEZ - Site de Pont du Gard

○ ポン・デュ・ガール→ユゼス

ポン・デュ・ガールから北西へ約14km、町並みがよく保存されていることで知られるユゼスへ。

● ユゼス Uzès 観光

17～18世紀に織物業で栄えた町。邸宅に囲まれたオゼルブ広場 Place aux Herbes など、当時の家並みが今も残る。

▶ ユゼス公爵邸 Duché d'Uzès

16世紀以来、ユゼスを治めたユゼス公爵の邸宅。ベルモンド塔 Tour Bermonde に上ると、町を一望することができる。

▶ サン・テオドリ大聖堂 Cathédrale St-Théodorit

大聖堂に隣接するフネストレル塔 Tour Fenestrelle は、フランスでは珍しい円筒型。12世紀の創建時の姿を今もとどめている。



ユゼスの町 ©Destination Pays d-Uzès Pont du Gard_Aurélio_Rodriguez

○ ユゼス→ニーム

ユゼスからD979で南下、途中山道を経由して、古代の遺構と現代建築が共存するニームへ。

● ニーム 観光

古代ローマの植民地となって以来、2000年以上の歴史を刻んできた古都。町には古代闘技場などローマ遺跡が残り、当時の繁栄ぶりを伝えている。20世紀後半からは、新しい都市づくりのためのプロジェクトが始動。世界的な建築家が設計を担当した現代建築がいくつも誕生した。現在は、古代ローマ都市として文化遺産を守りつつ、デザイン都市としても、注目を集めている。

▶ 古代闘技場 Arènes

紀元1～2世紀に建設されたとされる円形闘技場。133x199mの規模を持つ、ニーム最大のモニュメントで、保存状態の良さは世界一と称えられるほど。現在は、19世紀以来行われている闘牛や、オペラ、コンサート会場として使われている。

▶ メゾン・カレ Maison Carré

30本の列柱に囲まれた古代ローマ神殿、現存するローマ神殿のなかで最も保存状態がよいとされ、厳かで端正な姿を見せている。隣りに建つ「カレ・ダール Carré d'Art」は、イギリス人建築家ノーマン・フォスターによってデザインされた総合文化センター。町に降り注ぐ「光」からインスピレーションを得たという現代的なデザインで、古代建築のメゾン・カレと並ぶ様子は、ニームを象徴する風景となっている。



古代闘技場 © - OT Nîmes

▶ ロマニテ博物館

2018年、古代闘技場の向かいに開館した博物館。古代ローマから始まるニームの歴史を展示している。屋上テラスからは、ニームの町の眺望を楽しめる。

● ニームで車を返却

返却後、TGVでパリ・リヨン駅に向かうか、もしくは市内中心から14kmのニーム空港で返却することもできる。



カマルグの肉料理「ガルディアン・ド・トロ」

ニームの東、ローヌ川の支流と地中海に囲まれて広がるカマルグ湿原地帯。ここで育った牛肉を煮込んだ「ガルディアン・ド・トロ gardian de taureau」は、オクシタニー地域圏東部、ラングドック・ルシヨン地方の伝統料理。ボリュームたっぷり、ラングドックの赤ワインによく合う。

カマルグの米を添えることも © Gard Tourisme



古代ローマの壮大な遺構
©Ville de Nîmes



古代ローマのモザイクなどを所蔵
©Julien Lefebvre - CRT Occitanie

春の訪れ告げる ミモザの道

La route du mimosa qui vous amène le bonheur du printemps

イエール・レ・パルミエ～ボルム・レ・ミモザ～サント・マキシム
～マンダリュウ・ラ・ナプール～グラス～ニース

Hyères-les-Palmiers ~ Bormes les Mimosas ~ Sainte-Maxime ~ Mandelieu-la-Napoule ~ Grasse ~ Nice

南仏コート・ダジュールに春の訪れを告げる黄色い花「ミモザ」。「ミモザ祭り」が開催されるボルム・レ・ミモザから香水の町グラスまでは、「ミモザ街道」と呼ばれ、黄金色に染まる花の道のドライブを楽しめる。

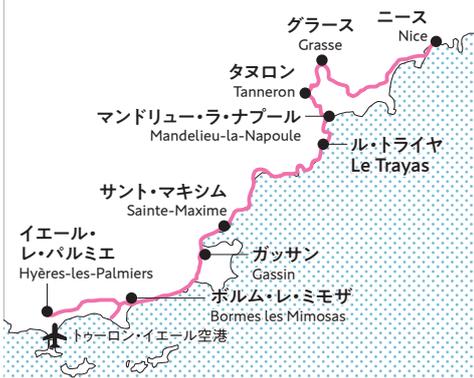


Provence Alpes Côte d'Azur

プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール



- 1 タヌロン周辺のパノラミックルート ©Estérel Côte d'Azur
- 2 ボルム・レ・ミモザのミモザ祭り © OT Bormes
- 3 マンダリュウ・ラ・ナプールの町を望む ©CRT COTE D'AZUR FRANCE/CMolrenc
- 4 ボルム・レ・ミモザからグラスまで続き「ミモザ街道」の標識 ©CRT COTE D'AZUR FRANCE/CMolrenc
- 5 香水の町グラス ©CRT COTE D'AZUR FRANCE/CMolrenc



ドライブ アドバイス



花に彩られる山道、地中海を見渡す海沿いの道と、変化のある風景を楽しめるドライブルート。南仏では「春を告げる花」として知られるミモザの花の開花時期は1月半ば～2月。とりわけ、野生のミモザが群生するタヌロン周辺のミモザ街道は、曲がりくねった山道なので、慎重に運転したい。



Press Contact

プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール地方観光局
Comité Régional de Tourisme
Provence Alpes Côte d'Azur

Susanne Zürn-Seiller
s.zurn-seiller@provence-alpes-cotedazur.com
URL <https://provence-alpes-cotedazur.com>

JOUR 1

ミモザ街道のスタート地点へ

陽光あふれる南仏最古の保養地として、多くの著名人が訪れたイエール・レ・パルミエからドライブをスタート。フラミンゴが生息する塩田など美しい自然の風景を楽しみながら、ミモザ街道の出発点となるボルム・レ・ミモザへ。



（ 走行距離 ）

イエール・レ・パルミエ～ボルム・レ・ミモザ 約24km

地方観光局のURL

●イエール・レ・パルミエ観光局

URL www.hyeres-tourisme.com

●ボルム・レ・ミモザ観光局

URL www.bormeslesmimosas.com

●ミモザ街道観光ルート

URL www.esterel-cotedazur.com/en/experiences/take-the-mimosa-route-on-the-french-riviera/

ビューポイントはここ！

① イエールの塩田 Le site des Salins d'Hyères

1990年代まで塩の採取が行われていたイエールには、広大なベスキエ塩田 Salin des Pesquiersと古い塩田 Vieux Salinsが残り、さまざまな野鳥が生息する自然保護区の景観を通年楽しめる。



フラミンゴの姿も見られる
©Var Tourisme / ABordelongue

② ブレガンソン要塞 Le Fort de Brégançon

フランス共和国大統領の夏のヴァカンス用の官邸となっている要塞で、カバソン Cabassonの浜辺から威風堂々とした佇まいを望むことができる。駐車はカバソンのParc CapallonもしくはカバソンビーチのParc Capaloで。時期によってはガイド付きツアー（予約制）で要塞内の見学が可能。



難攻不落の岩山に建つ要塞
©Var Tourisme / JWaltz

URL https://www.bormeslesmimosas.com/fr/diffusio/fete-et-manifestation/visite-guidee-du-fort-de-bregancon-bormes-les-mimosas_TFO4722396

午前

○イエール・レ・パルミエ Hyères-les-Palmiers

トゥーロン・イエール空港でレンタカーを借り、イエール・レ・パルミエへ。温暖な気候に恵まれたイエール・レ・パルミエは、歴史ある保養地。ヴィクトル・ユーゴー、ロバート・ルイス・スティーブンスン、レフ・トルストイなど多くの芸術家や作家が、このヤシの木の町に魅了され、頻りに訪れている。

▶ヴィラ・ノアイユ Villa Noailles

美術蒐集家だったマリー＝ロール Marie-Laureとシャルル・ド・ノアイユ Charles de Noailles夫妻の冬の別荘を改装したギャラリー。1920年代に夫妻が庇護した、当時は前衛的とされた芸術家たちの作品を常設展示している。入場無料。

URL www.hyeres-tourisme.com/patrimoine-culturel/villa-noailles/

▶イエールの塩田

イエール・レ・パルミエを出る前に、広大な塩田の景観を堪能（→ビューポイントはここ!）。「古い塩田」内にあるエスパス・ナチュール Espace Natureでは、テーマ別ツアーも実施している。エスパス・ナチュールへのアクセスは、国道RN 98で"Saint-Nicolas-Salins"出口を出たら塩田湿地帯を目指し、"Espace Nature des Salins d'Hyères - Levée de Saint-Nicolas"の標識に従う。駐車は下記のパーキングで。

- ・Parking des Pêcheurs (950m、徒歩11分)
- ・Parking de la Plage des Salins (1km、徒歩11分)



イエール・レ・パルミエの町並み
©Var Tourisme / Olivier Simon

旧市街のマシヨン広場
©Var Tourisme / Olivier Simon



気さくな雰囲気「ル・カフェ・デュ・プログレ」
©DBonfils

午後

○イエール・レ・パルミエ→ボルム・レ・ミモザ

県道D98を経由し、ミモザ街道の出発地、ボルム・レ・ミモザ Bormes-les-Mimosasへ。

●「ル・カフェ・デュ・プログレ Le Café du Progrès」でランチ

村で最も古いカフェ。才能あふれるシェフ、ファニー Fannyが作る、地中海の豊かなテロワールや子供の頃の思い出からインスピレーションを得た料理を楽しめる。

URL www.hostellerieducigalou.com/hotel-restaurant-bormes-les-mimosas.html

●中世の村ボルム・レ・ミモザをガイド付きツアーで観光

ボルム・レ・ミモザは、葉、糸球、香り、色が異なる90種ものミモザが咲く、ヴァール県のミモザの首都。12月から3月までのミモザの開花期には、まるで長い「金のボタン」のスカーフ écharpe bouton d'or で飾られたかのように、鮮やかな黄色と芳しい香りで覆い尽くされる。また1月最後の週末には、フランスの最大の植物イベント「ミモザリア Mimosalia」も行われる。ボルム・レ・ミモザの町は、この「冬の太陽」の開花のリズムに合わせて生きている。

●帽子屋「レ・ビビ・デュ・ミディ Les Bibis du Midi」に立ち寄り

ナタリー・パペ Nathalie Papetとクレマン・グリソ Clémence Grisotの個性的な帽子に出会える。

URL www.lesbibidumidi.fr

●ミモザ栽培園「ペピニエール・カヴァートル Pépinières Cavatore」訪問

ボルム・レ・ミモザの郊外にあり、1000㎡の面積をもつ温室では、200種近くのミモザ（正式名称はアカシア）のほか、さまざまな珍しい植物が栽培されている。

URL www.mimosa-cavatore.fr

●ボルム・レ・ミモザのホテル「エデン・ローズ・グラントテル Eden Rose Gand Hôtel」でディナー&宿泊。



エデン・ローズ・グラントテル
©Office de Tourisme Bormes les Mimosas

地中海を見下ろす場所にあり、部屋からポストカードのような美しい風景を満喫できるホテル。レストラン「レデン・フロー L'Eden Flow」では、地元の素材を使った地中海料理を味わえる。

URL <https://edenrose-grandhotel.fr>



ボルム・レ・ミモザ村の全景
©Var Tourisme / John Walzl



「レ・ビビ・デュ・ミディ」
©Office de Tourisme Bormes les Mimosas

この人に会いたい!

「ペピニエール・カヴァートル Pépinières Cavatore」で、多種多様なミモザを栽培しているミモザのスペシャリスト。ヨーロッパ全土に輸出されている180種類のミモザなど、特殊な品種の栽培をフランスで唯一承認されている人だ。豊富な知識をもつジュリアンさんに、ミモザの魅力を教えてもらおう。



ミモザのスペシャリスト、ジュリアン・カヴァートルさん
©FChavarocche Photography

「ペピニエール・カヴァートル」のジュリアン・カヴァートルさん



多種多様なミモザを育てるペピニエール・カヴァートル
©Office de Tourisme Bormes les Mimosas



ガッサン村
©E Bertrand

地中海を見渡せる
©E Bertrand



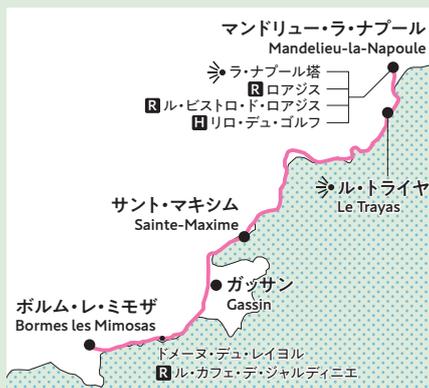
地中海を見渡す絶景の村 ガッサン Gassin

海拔200mの丘の上に、民家が寄り添うように並ぶ村。「フランスの最も美しい村」として登録されており、ブーゲンビリアに彩られた路地など、絵になる場所の宝庫だ。展望台からはサン・トロペ湾の素晴らしい眺望が得られる。

JOUR 2

紺碧海岸の花咲く道を行く

ボルム・レ・ミモザを出て、地中海に沿った道をとどる。コルニッシュ・ドル(コルニッシュ・デステレル)など、地中海のパンoramポイントをいくつも通る、絶景ドライブルートだ。



(走行距離)

ボルム・レ・ミモザ～マンドリュウ・ラ・ナプール
約107km

地方観光局のURL

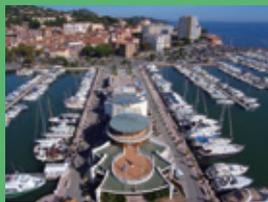
- サント・マキシム観光局
URL www.sainte-maxime.com/?lang=fr
- マンドリュウ・ラ・ナプール観光局
URL www.ot-mandelieu.fr

ビューポイントはここ!

① サント・マキシムのカレ塔

Tour Carrée de Sainte-Maxime

サント・マキシムの教会の向かいに、16世紀に修道僧たちによって建てられたカレ塔がある。この塔には現在、サント・マキシム博物館があり、最上階からサントロベ湾と港の美しい景色を眺めることができる。



サント・マキシムの港
STEMAXIMER
0052315s
© Var Tourisme /
Olivier Simon

② コルニッシュ・ドル

(コルニッシュ・ド・レステレル)

Corniche d'Or/Corniche de l'Estérel

コルニッシュ・ドルとは「黄金の断崖」という意味。赤い岩肌をむき出しにしたエステレル山塊と紺碧の地中海の間に挟まれた、フランスで最も美しい道路のひとつだ。なかでもハイライトと言えるのが、いくつもの入り江が続くル・トライヤ Le Trayas (サント・マキシムから46km地点)。ここを基点としたハイキングコースもあり、高台に上れば、息を呑むほどの絶景が広がる。



赤と青の色彩のコントラストに目を奪われる
massif de l'Estérel
©SLePelley

午前

○ボルム・レ・ミモザ→ドメヌ・デュ・レイヨル

●ドメヌ・デュ・レイヨル Domaine du Rayolへ

沿岸の自然保護団体によって運営されている地中海庭園 Le Jardin des Méditerranées。さまざまな国の植物が植えられ、世界の地中海(カリフォルニア、チリ、南アフリカ、オーストラリア、地中海沿岸、カナリア諸島)や、亜乾燥帯、亜熱帯気候の国(メキシコ、アジア、ニュージーランド、亜熱帯アメリカ)の風景を旅する気分を味わえる。

URL www.domainedurayol.org

午後

●「ル・カフェ・デ・ジャルディニエ Le Café des Jardiniers」でランチ

ドメヌ・デュ・レイヨル庭園内にあるカフェ。シェフのマリー・マチューが作る地中海料理や、さまざまな料理に触発された一品を楽しめる。

URL www.domainedurayol.org/le-jardin/le-cafe-des-jardiniers/

○ドメヌ・デュ・レイヨル→サント・マキシム

●サント・マキシム Sainte-Maxime

プロヴァンスとコートダジュールの間にあるサント・マキシムは、永遠に続いてほしいと願いたくなるようなひとときを過ごせる町。古いタイルの家、地元の特産物であふれる市場、商店街、建築遺産など、「本物のプロヴァンス」が感じられる場所だ。近代建築、プロヴァンス様式、「アール・デコ」といった名建築を探しながら、散歩するのも楽しい。

○サント・マキシム→コルニッシュ・ドル

→マンドリュウ・ラ・ナプール

海沿いを走るD559で、コルニッシュ・ドルの絶景(→ビューポイントはここ!)を堪能したのち、マンドリュウ・ラ・ナプールへ。

●ハイキングコースが充実。マンドリュウ・ラ・ナプール

Mandelieu-la-Napoule

毎年12月から2月のミモザの季節になると、町は黄色に染まり、甘い香りに包まれる。「大公の森 forêt du Grand-Duc」や「ヨーロッパ最大のミモザの森 Plus grande forêt de Mimosa d'Europe」と称されるタヌロン Tanneronの「ミモザ山塊 Le massif de mimosa」(→P.23)に出かけて、ハイキングを楽しむ人も多い。

▶エマヌエル・ド・マランド公園 Parc Emmanuelle de Marande

公園の中心には、10,000m近い広さをもつミモザ園がある。遊歩道沿いにも100種以上のミモザが植えられており、パネルによって、その特徴を知ることができる。2020年冬からは、マンドリュウとミモザの歴史をたどる「LA SAGA DU MIMOSA」が野外展示されている。

●「ロアジス L'Oasis」でディナー

マンドリュウ・ラ・ナプールを代表するガストロノミーレストラン「ロアジス L'Oasis」、またはより手頃な価格で楽しめる「ル・ビストロ・ド・ロアジス Le Bistrot de l'Oasis」でディナー。シェフのニコラ・ドウシェルシの伝統と現代性を融合させた料理を味わえる。

URL www.domainedebarbossi.fr/les-restaurants/

●「リロ・デュ・ゴルフ l'Ilot du Golf」で宿泊

川沿いにあり、海とゴルフ場がすぐという理想的なロケーション。伝統と現代性を合わせもつ造りで、41室の客室とスイートには、バルコニーまたはテラスが備わっている。オリーブの木陰では、いつでもワインやカクテルを楽しむ。

URL <http://ilotdugolf.fr>



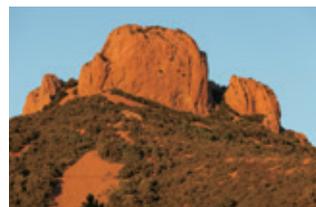
トロピカルな雰囲気のあるドメヌ・デュ・レイヨル ©Office de Tourisme de Rayol-Canadel-sur-Mer



「ル・カフェ・デ・ジャルディニエ」のテラス席でランチ ©Domaine du Rayol



サント・マキシムの町並み ©Office de Tourisme de Sainte Maxime



コルニッシュ・ドルの赤い岩 ©Var Tourisme / Emmanuel Dautant



マンドリュウ・ラナプールの町 ©CRT COTE D'AZUR FRANCE/CMolreuc



アーティストックな雰囲気の「ロアジス」 ©Restaurant Oasis Domaine de Barbossi



リロ・デュ・ゴルフのプール ©l'Ilot du Golf



ロアジスの「タルト・ミモザ」



マンドリュウ・ラ・ナプールのレストラン、ロアジスのシェフ、ニコラ・ドウシェルシとマチュー・マルシャンが、エステレル山塊全体に降り注ぐ太陽の光からインスピレーションを得て「タルト・ミモザ Tarte Mimosa (ミモザの香りとホワイトチョコレートを添えたチーズケーキ風タルト)」を制作。2月にロアジスのブティックにて期間限定で販売される。

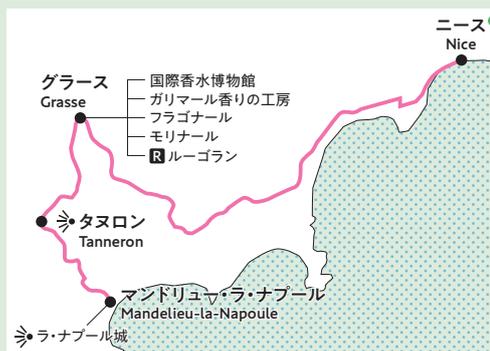


シェフのドウシェルシさん(左)とパティシエのマルシャンさん(右) ©E Strano

JOUR 3

絶景パノラマロードを抜けて、 香水の町グラスへ

最終日はミモザ街道のなかでも花爛漫のスポット、タヌロンを抜けて、世界的に知られる「香水の首都」でもあるグラスに向かう。リヴィエラの女王、ニースがドライブの最終地だ。



(走行距離)

マンドリュウ・ラ・ナプール→タヌロン→グラス→ニース 約70km

地方観光局のURL

- グラス観光局
URL www.paysdegrassetourisme.fr

ビューポイントはここ!

① ラ・ナプール城

マンドリュウ・ラ・ナプールの海沿いに建つ城。メイン庭園 jardin principal とラ・マンチャ庭園 jardin de La Mancha を見たあと、秘密の庭jardin secretに入る前に、地中海を見下ろすテラスからの眺望を楽しみたい。

URL www.chateau-lanapoule.com



ラ・ナプール城
©CRT COTE D'AZUR FRANCE/PBehar

② タヌロン Tanneron のパノラマロード

マンドリュウ・ラ・ナプールからグラスに向かう道筋、D138 を経由するミモザ街道上にある花の村。同じ名前が付いた山塊の中心部にあり、栽培されたミモザと野生のミモザの両方が咲き誇る。1月から3月にかけて、小さなふわふわのボールが森を黄色に染め、心ときめくドライブになるはず。

URL www.esterel-cotedazur.com/decouvrir/14-communes/pays-de-fayence/tanneron/



ミモザ色に染まる山道
©GRoumestan

午前

● ラ・ナプール城 Château de la Napoule

マンドリュウ・ラ・ナプールを離れる前にラ・ナプール城へ。歴史的建造物に認定されているこの古い要塞は、20世紀初頭に所有者となったアメリカ人芸術家ヘンリー・クリューによって修復・改装された。城内には彼の作品が展示されているほか、企画展も行われている(2022年春まで閉鎖中)。見学の際は、「注目すべき庭園 jardin remarquable」に格付けされている庭を散歩してみよう。(→ビューポイントはここ!)



ラ・ナプール城の庭園 ©CRT COTE D'AZUR FRANCE/CMoirenc

○ マンドリュウ・ラ・ナプール→タヌロン→グラス

海辺の町マンドリュウ・ラ・ナプールから県道D92を経由して内陸へ。ミモザ街道のクライマックスともいえるタヌロン山塊を抜けて、グラスへ。



グラスの町並み
©CRT COTE D'AZUR FRANCE/PBehar

● グラス Grasse

数々の名香を育んだ香水の町。中世の時代にはなめし革製造業が盛んな町だったが、その匂い消しのために、ジャスミン、ローズなどブローパンスの植物で香りをつけるところ、大評判に。香水作りが始まるきっかけになったという。温暖な気候で雨が少なく、香水の原料となる花の生育に適した環境にあり、自社のバラ園やジャスミン園を所有するブランドもある。博物館など香水に関する施設も多く、香りについて知識を深めることができる。グラスの芳香植物栽培技術と調香の技術は、2018年、ユネスコの世界遺産に登録された。

▶ 「国際香水博物館 Musée International de la Parfumerie」

「香り」をテーマにした博物館。昔の化粧品や香水瓶、香水の歴史などを展示している。博物館の庭園は5～11月に公開。

URL <https://www.museesdegrasse.com/en/history-international-perfume-museum>



昔の香水瓶も展示 ©CRT COTE D'AZUR FRANCE/G Veran



国際香水博物館
©CRT COTE D'AZUR FRANCE/CMoirenc

午後

● 「ルーゴラン LOUGOLIN」でランチ

グラスの郊外にあるレストラン。地中海料理を中心に、シェフ、ガザヴィエ・マランドランの自由な発想で作られる。手頃な値段設定も魅力。天気の良い日は、グラスの町を望めるテラス席がおすすめです。

URL www.lougolin.com/



ルーゴランのテラス席 ©LOUGOLIN

● 香水工場で調合体験

グラスにある香水メーカーでは、オリジナル香水の調合体験を行っている。数十種類ある香りのエッセンスから好きなものを選び、調香師の指導を受けながら、自分で調合する。世界にひとつだけの、オリジナル香水を作り、持ち帰ることができる。調合体験ができる香水メーカーは下記の3社。

▶ フラゴナール Fragonard Parfumeur

URL <https://usines-parfum.fragonard.com/atelier/>

▶ ガリマル Galimard, Le Studio des Fragrances

URL <https://www.galimard.com/categorie-produit/ateliers>

▶ モリナル Molinard

URL www.molinard.com/atelier-creation-parfum



ガリマルでの調合体験
©Parfums Galimard



モリナルの香水工場
©Molinard Parfums



フラゴナールのアトリエ・バルファン
©Fragonard Parfumeur

○ グラス→ニース

グラスからD6185を経由してカンヌ方面へ。カンヌの手前でオートルートA8に入り、ニースに向かう。オートルートを使わず、地中海の眺めを楽しみつつ、海沿いの県道を辿ることもできる。ニース・コート・ダジュール空港、もしくはニース・ヴィル駅で車を返却する。

👜 ミモザの香水



「フラゴナール」、「ガリマル」ではミモザの香りの香水を販売している。花束は持って帰れないけれど、満開の街道を走った思い出に、香りをお持ち帰りしては。

フラゴナールのミモザ香水
©Fragonard Parfumeur



ガリマルのミモザ香水 ©Parfumeurs Galimard



フランス絶景街道